Alternative experiences with people and artists in Sapporo

SAPPORO **TENJINYAMA** ART STUDIO

さっぽろ天神山アートスタジオ 2018年度活動記録集 ***Annual Report April 2018 - March 2019***

さっぽろ天神山アートスタジオ
と
アーティスト・イン・レジデンス

もともとホテル/宿泊施設だった公共施設を転用して始まったさっぽろ天神山アートスタジオが、「アートと市民の交流施設」という説明のされかたをしてとまどったのは、市民だけじゃなく施設の運営者に立候補した私たちも同じだった。つまり、札幌市において前例のない文化芸術施設が始まったと宣言されたからである。

私たちの提案は、この施設を「アーティスト・イン・レジデンスの拠点」として活用し、アーティストがこの場所で一時的に滞在し日々を過ごすことと、施設を休憩場所や公民館のような活動場所として利用する市民の生活を交差させようというものだった。
市民に身近な公民館/まちづくりセンターは、日常を持ち込み共有したり解決したりする場所であろうし、アーティスト・イン・レジデンスは、日常とはほんの少し違う(できたらいいな、こうしたいな、こうありたいな)という超日常を実験する場と機会であるから、似ているようで大きく異なる。

また、アーティスト・イン・レジデンス拠点には、ほかの発表を目的とした文化芸術施設と異なるのは、アーティストが一時的であれそこで「生活」することである。生活するのだから、日常は地続きであることは間違いない。しかしながら、そこで生活を営むアーティストの気構えは、「日々過ごしている日常」とはまったく同じ日常にはいない。いつもとほんの少し(または劇的に、意識的に)違う、ということが彼らの創造的活動にうまく作用するのは間違いない。この状況・この独特の緊張感を求めてアーティストは「いつもの 日々」から移動を始めるのだ。ある人が、家と仕事場で気持ちを入れ替えるようなそんな感じと似ているのかもしれないし、旅行に出かけるのと似ているのかもしれない。ある一時期をいつもと違う場所で過ごすことが「新しいことやものに向き合うチャンス」「これまでのやり方を振り返り、やり直しをするチャンス」をもたらすことがあるというのは、わりと想像しやすいだろう。アーティスト・イン・レジデンスは、アーティストからこのような「チャンス」を期待されて存在するものだ。

さっぽろ天神山アートスタジオは、こういった日常と地続きだけれどちょっと違う状況を文化芸術施設として醸していきたい。それは、主な利用者である市民とアーティストが、日常や日々の営みではたじろいでしまうような理想を追求することだったり、公共について考えたり、公共を創り出す試みであったり。現実を変えていく挑戦であったりするだろう。つまり、さっぽろ天神山アートスタジオはただの建物(ハード)ではなく、運営する私たちの、市民の、アーティストのアイデアや行為、実践といった創造的態度(ソフト)がなければ成立しない。建物はそれらが交差する現場であり、さっぽろ天神山アートスタジオは、いまを生きる私たちの「新しい活動」そのものである。(MO)

© 岡分剛

結晶化 Crystalization

2014 - 2018まで５年間の成果

2018年9月6日 3時7分 北海道胆振東部地震 発生

５年目のさっぽろ天神山アートスタジオについて総括すれば、忘れられないのが北海道胆振東部地震がおこったときのことである。地震発生は夜中で、施設内には夜間警備のスタッフと滞在しているアーティストのみがいた。全員の無事を確認したが、停電の影響で水道も止まった。外国人が滞在していることを気にかけてくれていたご近所の方が、滞在している外国人アーティストの話し相手を引き受けてくれた。アーティストも支え合って冷静さを保ってくれた。レジデンスはきれいごとではない営みであり、人の命を預かっているのだと、改めて思い知り、地域コミュニティとのつながりの必然性を再確認した。

更新可能な運営

地方自治体が保有する遊休施設を再利用して活動を開始したこと、つまり「使い方を変える」という「アイデア」が、この地域にアーティスト・イン・レジデンスの拠点を創りだしたことがまずは重要な成果である。この出現の仕方はかなり稀であり、事前の準備段階がなく、公共施設運営は市のレギュレーションを踏襲したものの、アーティスト・イン・レジデンス拠点の運営方法は、スタート時から実験を繰り返しながら更新することができたことにより、時代の流れと利用者であるアーティストのニーズに応える運営方法を導き出した。一方で、市民にとって、取り壊しが決まっていた公園内の宿泊施設が再稼働したことは、「散歩中にトイレが使えるようになった」「ホテル時代には自由に立ち入りできなかったのに、新しい休憩場所として使えるようになった」というだけのことだったのだが、大いに歓迎された。空き家状態の施設が再稼働し、ただ便利なだけじゃない、地域コミュニティの「安心」も同時にもたらすことができた。

AIR 環境としての新しさ

さっぽろ天神山アートスタジオにおけるアーティスト・イン・レジデンスの方針は、「一期一会型」・「奨学金型」アーティスト・イン・レジデンスのこれまでの日本における典型的な AIR フォームを選ばず、利用者であるアーティストの経費自己負担を前提にした試みを導入し、この代わりに「繰り返し滞在できる」「アーティストが滞在期間を決めることができる」「アーティストは経済サポートにつきまとう義務（タスク）から解放され、滞在活動を自由に設計し実行することができる」という状況を提供することができた。近年の渡航費や渡航手段が簡易になったきた傾向もあって２年目以降は年間のべ400 人以上の滞在が実現するようになった。また、特記すべきは繰り返し滞在するアーティストによって、時間をかけたプロジェクトが成立し、発表段階までこぎつける例が多く見られるようになったことだ。

地域資源との接続

アーティストの自己負担に頼りながら運営するアーティスト・イン・レジデンスでは、お金の代わりに何を支援するのか何を提供するのか、という悩みと問いに対し思考を重ねる価値は充分にあった。結論からいうと資金の代わりに「地域資源」を準備して「充実した滞在制作活動という経験」を提供するということ。そのために「リサーチや制作に必要な素材・知識・技術と環境・人材（地域資源）を北海道内・札幌市内で収集しアーティストのニーズや方向性とマッチングさせる / 対話とコーディネート」「13 室のスタジオを常に稼働させ、滞在するアーティスト同士の交流を創る / ポストアカデミー効果を高める」を構築してきた。これからは、これまでのアーティストの個々の活動と情報の集積を次のほかのだれかの活動に活用するための情報の収集と蓄積 / アーカイブに取り組んでいく。

キーワード

共有する Sharing
ともにいる Collective
ながく続くために Sustinability

これらの成果は、これまでさっぽろ天神山アートスタジオに滞在し、意欲的に活動をおこなったすべてのアーティストの視点、リサーチ、プロジェクトを通じて私たちに与えられたご褒美のようなものである。北海道・札幌という地域、多くの滞在アーティストとともに、いまの私たちなりの、さっぽろ天神山アートスタジオの営み、アーティスト・イン・レジデンスは、柔軟な意思をもち、フランソワ・レミュー（UCCN プログラム招聘アーティスト）が気づかせてくれたように雪の結晶ができていく様と重なり合う。まるで５年という時間をかけて出来上がった雪の結晶みたいな。

all about さっぽろ天神山アートスタジオ

アートキャンプ

札幌市内小・中学生を対象にした年に1回の合宿プログラム。アーティストと参加する子供たちがともに時間を過ごすことをベースにアーティストによるワークショップ形式で行う。

アーティスト・プレゼンテーション

滞在制作の充実と地域との接点づくりのため、アーティストのモチベーションとタイミングに応じて実現する、トーク、成果発表などのイベント。

市民利用の実績

誰でも利用できる公共空間＝子供の新しい遊び場として見出されている。公園内の物理的、精神的なシェルター機能を発揮。

情報発信 多様なツールを活用

公園内の掲示板、入り口の黒板と看板、公式ホームページ, Facebook, Instagram, Twitter, YouTube, Podcast, Eメール・ニュース配信, 取材依頼のためのプレスリリース作成と発行。アーカイブ活動と兼ねて行っている。

アートと市民の交流拠点

パブリックスペースプロジェクト

滞在するアーティストと施設利用の市民が公共空間を共有し、お互いに存在と活動を容認しあう状況をつくることを目的に施設内での滞留時間を長くするしかけを配置し、市民自身の日常とアーティストの存在と活動が自然と身近にある状況を創り、それらに慣れるようになる。

庭プロジェクト 天神山文化祭

年に１回。

アート＆ブレックファーストデー ©三田村光土里

毎月第３日曜日に開催！

共有する *Sharing*
ともにいる *Collective*
ながく続くために *Sustinability*

滞在スタジオ

13スタジオ

さっぽろ天神山アートスタジオ

札幌市の公共施設（文化芸術施設）

公園の無料休憩所

8:45-21:00 OPEN

ソファ＆テーブル、北海道新聞、図書、ピアノ、卓球台の配置とその他公共スペースの活用

週1回の休館日、連休は年末年始のみ

交流スタジオ

３スタジオ

AIR実績

年間400人以上の国内外のアーティストなどが滞在。また、市内で開催される文化芸術事業参加者の利用を受入れており、個人のアーティストとその活動だけではなく札幌の文化芸術クラスタ全体を支援できている。また滞在したアーティストの活動が市内の施設・事業の新しいコンテンツとして採用されている。

AIR ディレクターとコーディネーター

専門人材による的確なサポートを提供。精度の高い選考を実施するなど滞在制作活動のクオリティを担保できる環境を整備している。アーティストとスタッフの対話やミーティングなど日々のコミュニケーションを重ねることを重視。AIRディレクターによる滞在後のフォローアップ、発展的プロジェクトに対するサポートがあり、時間をかけたプロジェクトの実現が可能。

文化芸術分野のインフラ

創造的活動を行うひと（＝アーティストなど）のキャリアパスとして機能することを目指し、その活動を支援する目的で３つのプログラムを展開している。（セルフ・ファンディング、ネットワーキング／交換、国際公募／招聘）

ポストアカデミー効果

多分野かつスタジオ数が多いことから、滞在しているアーティスト同士の交流を促進する機会（水曜シェアリング（情報共有の集い）、食事会、トークなど）を随時実施。

アーティスト・イン・レジデンス拠点

AIRはネットワーク

交流を関係性の構築のための手段とし、滞在制作を行うアーティストの活動全てのプロセスで、地域との接点を創り交流を促進している。また市内各所にでかけるエクスカーションも行う。アーティストを介した国内外の個人・在日大使館・団体・学校・地域とのネットワーク構築を意識したデータベースを作成している。

民間チーム運営の特徴

市民の感覚を忘れない。私たちが生きる現代社会について、多様な価値、経済やしくみなど、変化や未来について当たり前のように考えられること。その上で、私たちは『クリエイティビティ』を発揮してどこまでサバイバルできるのだろうか。

ローカルネットワークの構築と活用

“札幌／北海道”＝アーティストのためのスタジオ／フィールドワークの対象

施設の中に特殊な工房／設備をもたない。その代わり、市内にすでにある設備・機能・技術・人材とつながる。

地域資源の可視化

デジタルアーカイブの手法で、滞在しているアーティスト、その活動、交流に関する調査を実施し、記録・保存している。アーカイブデータは広報にも活用する。（アートとリサーチセンター）

AIS プランニング／さっぽろ天神山アートスタジオの活動アーカイブ

© 國分蘭

Public Space Project

パブリックスペースプロジェクト

滞在するアーティストと施設利用の市民が公共空間を共有し、お互いに存在と活動を容認しあう状況をつくることを目的に施設内での滞留時間を長くするしかけを配置し、市民の日常とアーティストの存在と活動が自然と身近にある状況を創り、それらに慣れるようになる。

日々の出来事、滞在しているアーティストのことやイベントについて、YouTube「天神山アートスタジオ」チャンネルで発信中。チャンネル登録も！
https://www.youtube.com/channel/UCtvZE3iOdYpwx_T_n1u6_Hg/featured

AIS プランニング / さっぽろ天神山アートスタジオの活動アーカイブ

アーティスト・プレゼンテーション

滞在制作の充実と地域との接点づくりのため、アーティストのモチベーションとタイミングに応じて実現する、トーク、成果発表などのイベント。
2014 年開館以来、多くの国内外のアーティストがリサーチ・制作を目的に滞在してきた。過去の滞在アーティストを時間を経て招き、成果発表を実現してもらうイベントも始まった。プライベートな作業がパブリックに共有されるチャンスをつくるプロジェクト。

・はぎのみほ「きおくのなかのくに」写真展とトーク
・荒木 悠＋ダニエル・ジャゴビー　ロッテルダム国際映画祭 タイガー賞受賞作品
「Mountain Plain Mountain」上映会@帯広競馬場
・國分 蘭「Looking For Herring」写真展とトーク

アートキャンプ

札幌市内の小・中学生が対象のアート・プログラム。2018年度は関川航平（アーティスト）を迎え、「すごく よく みる」と題した2泊3日の活動を行った。難易度の高いテーマに対し、子どもたちは戸惑いながらも、滞在のアクティビティとアーティストと時間を共にする体験を経てよくわからないけどなんとなくわかったという、自分からつかみに行く、またやってくるなにかにふれるという経験をすることとなった。プログラム中の関川航平のふるまいは、パフォーマンスそのものであって、アーティストの作品に子どもたちもパフォーマーとして参加しているような、関わる人の自律的行為が引き出された稀な３日間になった。

庭プロジェクト、天神山文化祭

天神山文化祭は、まちづくり会「いきいき南平岸」が南平岸駅前通り (白石・藻岩通り) で数年に渡り実施していたアートプレート展の会場としてさっぽろ天神山アートスタジオの使用を提案されたことから始まった。その際に、まちづくり会の既存の活動 (散歩会など) やアーティストによるワークショップなどを盛り込むことで、地域連携事業の一環として、またさっぽろ天神山アートスタジオの情報発信の場としてこのお祭りが誕生した。文化祭はさっぽろ天神山アートスタジオを利用する一般利用者や、アーティスト、豊平区などを含む個人・団体が企画・運営を協働で行い、第２回目以降はまちづくり会の年間行事として予算が組まれ、さっぽろ天神山アートスタジオとの共催事業として実施することとなった。文化祭を通じて天神山周辺地域の魅力を発見、発信、発展するということが大きな目標となっており、さっぽろ天神山アートスタジオだけでなく天神山緑地も活用しイベントを実施した。

2018 年度参加団体 / 個人：葛西明子 / 日本折り紙協会、佐仲泰輔、安達ひで子、はなの會 / いけ花、桂三段（落語家）、シルベストレ・バルガス、菊池富也、北海学園大学ジャズ研究会、Whiz ＋、Claire & Sean、岡田明彦、のんびり喫茶「天神山」、アートプレート展、まちづくり会「いきいき南平岸」、南平岸商店街振興組合、南平岸まちづくりセンター、札幌新陽高等学校

アート＆ブレックファーストデー

アーティストの三田村光土里が始めたアート＆ブレックファーストを、2014 年以来、月に一度、滞在しているアーティスト、スタッフと市民がいっしょに朝食時間を共有するイベントとして実施している。市民が天神山アートスタジオを体験する入り口として機能している。2018 年度には、この機会に合わせ滞在中のアーティストが自身の活動を紹介するアーティスト・トークを実施した。この出会いと学びをきっかけに市内の美術館、劇場、ギャラリーなどに足を運ぶような流れをつくってきた。

三田村光土里プロジェクト・アーカイブ
https://www.midorimitamura.com/artbreakfastarchive.htm
Art & Breakfast Day
https://www.artandbreakfast.info/

SAPPORO TENJINYAMA ART STUDIO 2018–2019

滞在アーティスト
Resident

①国籍②拠点③活動分野④活動内容
※掲載情報は当施設に滞在していた当時の情報です。
②について、海外アーティストは国名、
国内アーティストは都道府県名で表記しています。

阿児 つばさ　Ako, Tsubasa
①日本 ②兵庫県 ③美術、映像 ④リサーチ

ミッシェル・アンジェリカ・カビルド"ミカ"　Cabilido, Michelle Angelica "Mica"
①②フィリピン ③美術 ④創作活動、リサーチ

カイヤン・ビショップ　Bishop, Kyan
①②アメリカ ③美術、写真 ④創作活動、リサーチ

近藤 和見　Kondo, Kazumi
①日本 ②京都府 ③美術、演劇 ④創作活動

横谷 奈歩　Yokoya, Naho
①日本 ②東京都 ③美術 ④リサーチ

ベッカ　Bekah
①アメリカ ②チェコ ③美術、デザイン ④創作活動、リサーチ

中島 秀之　Nakashima, Hideyuki
①日本 ②北海道 ③その他 ④リサーチ

アクセル・ディゴワ　Axel Digoix
①②フランス ③美術、写真、映像、デザイン、その他 ④リサーチ

渡辺 綾子　Watanabe, Ayako
①日本 ②京都府 ③演劇 ④創作活動

田中 博　Tanaka, Hiroshi
①日本 ②北海道 ③写真 ④創作活動

トヨサキ・アリサ　Toyosaki, Alisa
①フランス ②東京都 ③音楽、映像 ④創作活動

ウスマン・アグ・モサ　Ag Mossa, Ousmane
①②マリ ③音楽 ④創作活動

岡田 明彦　Okada, Akihiko
①日本 ②京都府 ③工芸 ④リサーチ

中崎 透　Nakazaki, Tohru
①日本 ②茨城県 ③美術 ④リサーチ

長坂 有希　Nagasaka, Aki　他１名
①日本 ②大阪府 ③美術 ④創作活動

原田 大輔　Harada, Daisuke
①日本 ②東京都 ③美術、その他 ④リサーチ

2018 4 April

4月15日
Art and Breakfast day
アーティスト・トーク：アクセル・ディゴワ

2018 5 May

山本 耕一郎　Yamamoto, Koichiro　他１名
①日本 ②青森県 ③美術、デザイン ④リサーチ

中山 芳子　Nakayama, Yoshiko
①日本 ②北海道 ③その他 ④リサーチ

小和田 久美子　Kowada, Kumiko
①日本 ②北海道 ③その他 ④リサーチ

札幌平岸高等学校放送局　Sapporo Hiragishi Highschool　他９名
①日本 ②北海道 ③映像 ④創作活動

空 音央 Sora, Neo
①②アメリカ ③映像、その他 ④リサーチ

渡邉 塊　Watanabe, Kai
①日本 ②千葉県 ③音楽 ④創作活動、リサーチ

高田 恵篤　Takada, Keitoku
①日本 ②東京都 ③演劇 ④ワークショップ「俳優のためのスキルアップレッスン」/ シアター ZOO

福士 恵二　Fukushi, Keiji
①日本 ②東京都 ③演劇 ④ワークショップ「俳優のためのスキルアップレッスン」/ シアター ZOO

二上 貴夫　Futakami, Kifu
①日本 ②神奈川県 ③文芸 ④創作活動

岡川 航平　Seikgawa, Kohei
①日本 ②宮城県 ③美術 ④リサーチ

チン・イン・シェン　Chen Ying Hsien　他１名
①②台湾 ③音楽 ④リサーチ

佐藤 ヒロカ　Sato, Hiroka
①日本 ②東京都 ③美術 ④創作活動

藤田 雅子　Fujita, Masako
①日本 ②北海道 ③その他 ④創作活動

小出 雅之　Koide, Masayuki
①日本 ②北海道 ③その他 ④創作活動

前畑 侑紀　Maehata, Yuki
①日本 ②神奈川県 ③映像 ④創作活動

蓮見 孝　Hasumi, Takashi
①日本 ②茨城県 ③デザイン ④リサーチ

アサダ ワタル　Asada, Wataru
①日本 ②滋賀県 ③美術、映像 ④リサーチ

マルスカ・ロンキ　Ronchi, Maruska
①②イタリア ③ダンス、その他 ④リサーチ

マリア・イバレッツェ　Ibarretxe, Maria
①②スペイン ③美術、映像 ④創作活動、リサーチ

ミリアム・セダカ　Sedacca, Miriam
①②イギリス ③美術、映像 ④創作活動、リサーチ

山田 百次　Yamada, Momoji
①日本 ②東京都 ③演劇 ④公演「コケモモの実る丘」/ シアター ZOO

ケネス・チャン　Chang, Kenneth
①②香港 ③写真、デザイン ④創作活動、リサーチ

クビー・ソウ　So, Cubble
①②香港 ③写真、デザイン ④創作活動、リサーチ

5 月 20 日
Art and Breakfast day
アーティスト・トーク：渡邉 塊

5 月 30 日
パフォーマンス「十六夜 - 満月の儀式 -」
マルスカ・ロンキ、ジョッシュ・ブルーム、鼓代 弥生、明夜（AkiYo）

2018 6 June

6 月 17 日
Art and Breakfast day
アーティスト・トーク：ガリーナ・マニコバ

6 月 17 日
ワークショップ「CRACK! – Loving what is broken / こわれたものの愛し方 –」
マリア・イバレッツェ＆ミリアム・セダカ

6 月 17 日
ワークショップ「ラッキーマスコットにがおえ」
佐藤 ヒロカ

船山 哲郎　Funayama, Tetsuro
①日本 ②北海道 ③美術、映像、デザイン ④リサーチ

下舘 和巳　Shimodate, Kazumi
①日本 ②宮城県 ③演劇 ④創作活動、リサーチ

浅井 真理子　Asai, Mariko
①日本 ②埼玉県 ③美術 ④個展「BLAIND GARDEN」/CAI02

蓮見 孝　Hasumi, Takashi
①日本 ②茨城県 ③デザイン ④リサーチ

ガリーナ・マニコバ　Manikova, Galina
①②ノルウェー ③美術 ④リサーチ

中島 祐太　Nakajima, Yuta
①日本 ②群馬県 ③美術 ④リサーチ

土井 麻利江　Doi, Marie　他 1 名
①日本 ②奈良県 ③美術 ④創作活動

横山 拓也　Yokoyama, Takuya　他 10 名
①日本 ②大阪府 ③演劇 ④公演「肅々と運針」/ シアター ZOO

ダンテ・ホロイワ　Horoiwa, Dante
①②ブラジル ③美術 ④リサーチ

シド・マリークラーク　Murray-Clark, Sidd　他 5 名
①イギリス ②兵庫県 ③美術 ④創作活動

キム・ボリ　Kim, Bori
①②韓国 ③写真 ④創作活動、リサーチ

6 月 14 日 – 21 日
滞在成果展「COMBO/ コンボ - まぜこぜ -」
ケネス・チャン＆クビー・ソウ

2018 7 July

多田 輝男　Tada, Teruo
①日本 ②神奈川県 ③その他 ④創作活動

蓮見 孝　Hasumi, Takashi
①日本 ②茨城県 ③デザイン ④リサーチ

キム・ボリ　Kim, Bori
①②韓国 ③写真 ④リサーチ

クラゾノ マキ　Kurazono, Maki　他 3 名
①日本 ②東京都 ③演劇、その他 ④創作活動

はぎの みほ　Hagino, Miho
①日本 ②メキシコ ③美術 ④展覧会「きおくのなかのくに」/ さっぽろ天神山アートスタジオ

平塚 直隆　Hiratsuka, Naotaka
①日本 ②愛知県 ③演劇 ④イレブンナインプレゼンツ deBoo「12 人の怒れる男」/ かでる 2.7

久保 隆徳　Kubo, Takanori
①日本 ②北海道 ③演劇 ④イレブンナインプレゼンツ deBoo「12 人の怒れる男」/ かでる 2.7

野原 万里絵　Nohara, Marie
①日本 ②大阪府 ③美術 ④「絵画の現在地」/ 500m 美術館

中田 有美　Nakata, Yumi
①日本 ②奈良県 ③美術 ④「絵画の現在地」/ 500m 美術館

岡和田 桃　Okawada, Momo　他 2 名
①日本 ②北海道 ③デザイン ④リサーチ

クレア・ヒーリー　Healy, Claire
①②オーストラリア ③美術 ④2018 年ネットワーキング事業 Asia link からの派遣アーティスト

ショーン・コーデイロ　Cordeiro, Sean　他 2 名
①②オーストラリア ③美術 ④2018 年ネットワーキング事業 Asia link からの派遣アーティスト

下舘 和巳　Shimodate, Kazumi　他 11 名
①日本 ②宮城県 ③演劇 ④公演「アイヌ オセロ」/ かでる 2.7

渡辺 元佳　Watanabe, Motoka
①日本 ②東京都 ③美術 ④創作活動

佐藤 克久　Sato, Katsuhisa
①日本 ②愛知県 ③美術 ④「絵画の現在地」/ 500m 美術館

マリア・イバレッツェ　Ibarretxe, Maria
①②スペイン ③美術、映像 ④創作活動、リサーチ

ミリアム・セダカ　Sedacca, Miriam
①②イギリス ③美術、映像 ④創作活動、リサーチ

水津 聡　Suitsu, Satoshi
①日本 ②北海道 ③演劇 ④イレブンナインプレゼンツ deBoo「12 人の怒れる男」/ かでる 2.7

チャン・マン・チュン　Chan, Man Chun
①②香港 ③美術 ④創作活動

ヘーゼル・ウォン・メイ・イン　Wong, Mei Yin, Hazel
①②香港 ③美術 ④創作活動

植野 智子　Ueno, Tomoko
①日本 ②埼玉県 ③美術 ④創作活動

尾花 壹子　Obana, Aiko　他 2 名
①日本 ②東京都 ③ダンス ④創作活動、リサーチ

ウンハ・ベク　Baek, Eunha
①②韓国 ③美術 ④創作活動

真元　Makoto, Hajime
①日本 ②大阪府 ③美術 ④創作活動、リサーチ

佐藤 寛大　Sato, Takahiro　他 1 名
①日本 ②愛知県 ③演劇 ④リサーチ

磯崎 道佳　Isozaki, Michiyoshi
①日本 ②北海道 ③美術 ④創作活動

ラベ・ボリス　Labbe, Boris
①②フランス ③映像 ④リサーチ

関川 航平　Seikigawa, Kohei
①日本 ②宮城県 ③美術 ④天神山アートキャンプ 2018 講師「すごく よく みる」/ さっぽろ天神山アートスタジオ

廣瀬 利勝　Hirose, Toshikatsu
①日本 ②北海道 ③演劇 ④創作活動

ヘザー・パーネル　Parnell, Heather
①②イギリス ③美術、音楽、映像 ④創作活動

ポール・ヘイゼル　Hazel, Paul
①②イギリス ③美術、音楽、映像 ④創作活動

7 月 13 日 – 22 日
展覧会「きおくのなかのくに」
はぎの みほ、タロウ・ソリジャ

7 月 22 日
「きおくのなかのくに」フォトブック出版記念トーク - メキシコにおける日系移民を形作る思想 -
はぎの みほ、三浦 里美

7 月 16 日
Art and Breakfast day
アーティストトーク：はぎの みほ

7 月 20 日
カルチャーナイト 2018

7 月 27 日 – 31 日
滞在成果展「Being In It」
ウンハ・ベク

7 月 28 日 – 30 日
天神山アートキャンプ 2018「すごく よく みる」
関川 航平

7 月 29 日
実験パフォーマンス
マリア・イバレッツェ＆ミリアム・セダカ

2018 8 August

8 月 7 日 – 12 日
滞在成果展
ヘザー・バーネル & ボー・ヘーゼル

8 月 15 日 – 19 日
滞在成果展「行ってきます」
チャン・マン・チュン＆ウォン・ヘーゼル

8 月 19 日
Art and Breakfast day
アーティストトーク：中西 晴世

8 月 24 日
滞在成果展
中西 晴世

8 月 26 日
ワークショップ「傷ついた惑星に暮らすほうほうとやりかた」
レイム・シャルロッテ＆エルムホイ・ハンセン・キルスティーン

8 月 26 日 – 9 月 2 日
滞在成果展「機械と芸術 - アート分析 -」
真 元

牛嶋 直子　Ushijima, Naoko　他 1 名
①日本 ②群馬県 ③美術 ④創作活動

鈴木 悠歩　Suzuki, Yuya
①日本 ②北海道 ③美術 ④創作活動

キム・ガンボ　Kim, Kwangbo　他 8 名
①②韓国 ③演劇 ④公演 劇団青羽「そうじゃないのに」/ シアター ZOO

サンドリーヌ・ロジェ　Rozier, Sandrine
①②フランス ③美術、工芸 ④創作活動

九澤 靖彦　Kuzawa, Yasuhiko
①日本 ②北海道 ③演劇 ④イレブンナインプレゼンツ deBoo「12 人の怒れる男」/ かぞる 2.7

廣瀬 利勝　Hirose, Toshikatsu
①日本 ②北海道 ③演劇 ④イレブンナインプレゼンツ deBoo「12 人の怒れる男」/ かぞる 2.7

水津 聡　Sutsu, Satoshi
①日本 ②北海道 ③演劇 ④イレブンナインプレゼンツ deBoo「12 人の怒れる男」/ かぞる 2.7

蓮見 孝　Hasumi, Takashi
①日本 ②茨城県 ③デザイン ④リサーチ

川崎 勇人　Kawasaki, Yuto
①日本 ②東京都 ③演劇 ④公演 劇団青羽「そうじゃないのに」/ シアター ZOO

久保 隆徳　Kubo, Takanori
①日本 ②北海道 ③演劇 ④イレブンナインプレゼンツ deBoo「12 人の怒れる男」/ かぞる 2.7

ロビン・トンプソン　Thompson, Robin
①②イギリス ③音楽 ④リサーチ

黄金井 修　Koganei, Osamu
①日本 ②東京都 ③音楽 ④創作活動

エルムホイ・ハンセン・キルスティーン　Elmhoi Hansen, Kirstine
①②デンマーク ③美術、デザイン ④創作活動、リサーチ

レイム・シャルロッテ　Reim, Charlotte
①②デンマーク ③美術、デザイン ④創作活動、リサーチ

福田 真知　Fukuta, Masakazu
①日本 ②滋賀県 ③美術、写真、映像 ④展示「きらめきの結晶体語 / 紡がれる物語」/To ov cafe

寺脇 扶美　Terawaki, Fumi
①日本 ②愛知県 ③美術 ④展示「きらめきの結晶体語 / 紡がれる物語」/To ov cafe

秋田 真介　Akita, Shinsuke
①日本 ②大分県 ③工芸 ④創作活動

パク・ジーホン　Park, Jihong
①②韓国 ③写真、映像 ④創作活動、リサーチ

中西 晴世　Nakanishi, Haruyo
①日本 ②神奈川県 ③美術 ④「第四回さっぽろアートビーンズ展 - 和紙流儀 × ボストン -」/ スカイホール

廣瀬 利勝　Hirose, Toshikatsu
①日本 ②北海道 ③演劇 ④創作活動

大崎 清夏　Osaki, Sayaka
①日本 ②神奈川県 ③文芸 ④創作活動

細淵 太麻紀　Hosobuchi, Tamaki
①日本 ②神奈川県 ③美術、写真 ④リサーチ

荻原 静子　Ogihara, Shizuko
①日本 ②北海道 ③その他 ④創作活動

栗原 康行　Kurihara, Yasuyuki　他 9 名
①日本 ②愛知県 ③映像 ④創作活動、リサーチ

畠本 哲郎　Hatamoto, Tetsuro　他 3 名
①日本 ②長崎県 ③演劇、その他 ④公演「マグノリアの花たち」/ ターミナルプラザことに PATOS

マイヤ・パービライネン　Paavilainen, Maija　他 1 名
①②フィンランド ③美術 ④リサーチ

サンドリーヌ・ロジェ　Rozier, Sandrine
①②フランス ③美術、工芸 ④創作活動

ライ・カレン　Lai, Karen
①②カナダ ③美術 ④創作活動

2018 9 September

9 月 6 日 3 時 7 分 59.3 秒
北海道胆振東部地震 発生

9 月 17 日
Art and Breakfast day
アーティストトーク：マイヤ・パービライネン、プレスマン・ラルフ

9 月 22 日
第 5 回天神山文化祭 2018

9 月 22 日
ワークショップ「The Pizza Effect」
クレア・ヒーリー＆ショーン・コーデイロ

9 月 22 日 – 29 日
滞在成果展「The Pizza Effect」
クレア・ヒーリー＆ショーン・コーデイロ

桂 裕隆　Katsura, Hirotaka
①日本 ②東京都 ③その他 ④創作活動

松崎 好嗣　Matsuzaki, Yoshinori
①日本 ②神奈川県 ③美術 ④創作活動

イェ・ミンファ　Yeh, Ming-Hwa
①②台湾 ③ダンス ④リサーチ

ニコラ・ブラー　Boulard, Nicolas
①②フランス ③美術 ④リサーチ

プレスマン・ラルフ　Plessmann, Ralf
①②ドイツ ③写真 ④創作活動

高間 響　Takama, Hibiki　他 3 名
①日本 ②京都府 ③演劇 ④創作活動

クウォン・マン・チュン　Kwong, Man Chun　他 3 名
①②香港 ③美術 ④創作活動、リサーチ

ベッカ　Bekah　他 3 名
①アメリカ ②チェコ ③美術、デザイン ④創作活動、リサーチ

クリスチャン・ハッセル　Hussel, Christian
①②ドイツ ③文芸 ④創作活動、リサーチ

大澤 寅雄　Osawa, Torao
①日本 ②福岡県 ③その他 ④リサーチ

ロビン・トンプソン　Thompson, Robin
①②イギリス ③音楽 ④リサーチ

顔 孺 / ヤン・レイ　Yan Lei　他 4 名
①②中国 ③美術 ④創作活動、リサーチ

岡田 明彦　Okada, Akihiko
①日本 ②京都府 ③工芸 ④創作活動

長坂 有希　Nagasaka, Aki
①日本 ②大阪府 ③美術 ④創作活動

ピーター・ドブロニ　Dobronyi, Peter　他 1 名
①②デンマーク ③音楽、写真 ④リサーチ

ロイ・カーメリー　Carmeli, Roi
①イスラエル ②イギリス ③美術、工芸 ④創作活動、リサーチ

トム・クラズニー　Krasny, Tom　他 1 名
①チェコ ②イギリス ③美術、工芸 ④創作活動、リサーチ

高田 K 子　Takada, Keiko
①日本 ②北海道 ③美術 ④展覧会「Nonlocality」/ アルテピアッツァ美唄

2018 10 October

10 月 2 日 − 8 日
滞在成果展「Blur / ぼかし」
クォン・マン・チュン、コン・ヨ・イー、
ウン・イン・ラン、チウ・イン・マン・デビー

10 月 8 日
上映会とアフタートーク「Mountain Plain Mountain」
荒木 悠、ダニエル・ジャゴビー

10 月 21 日
Art and Breakfast day
アーティストトーク：reunit、ロイ・カーメリー＆トム・クラズニー

10 月 22 日
台湾 台東 交換プログラム報告会
梅田 哲也、MC MANGO、台湾料理ごとう

10 月 24 日 − 30 日
滞在成果展「Hibernation - 冬眠 -」
ロイ・カーメリー＆トム・クラズニー

福原 冠　Fukuhara, Kan　他 6 名
①日本 ②東京都 ③演劇 ④公演「NEW HERO」/ よりどこオノベカ

ヘレン・グローヴ・ホワイト　Helen, Grove-White　他 1 名
①②イギリス ③美術 ④創作活動、リサーチ

蓮見 孝　Hasumi, Takashi
①日本 ②茨城県 ③デザイン ④リサーチ

二上 貴夫　Futakami, Kifu
①日本 ②神奈川県 ③文芸 ④創作活動

澤 隆志　Sawa, Takashi
①日本 ②東京都 ③美術、映像 ④リサーチ

荒木 悠　Araki, Yu
①日本 ②東京都 ③映像 ④ 上映会「HOMECOMING ▲_▲ Mountain Plain Mountain ▲_▲」/ 帯広競馬場

黒田 大祐　Kuroda, Daisuke
①日本 ②広島県 ③美術 ④2018 年度 AIR プログラム (文化庁) 招聘アーティスト

萩尾 健治　Haglo, Kenji　他 1 名
①日本 ②東京都 ③美術 ④創作活動

ジュン・チョン　Jun, Chong
①②シンガポール ③映像 ④2018 年度自主事業 AIR プログラム招聘アーティスト

根上 陽子　Negami, Youko
①日本 ②東京都 ③その他 ④リサーチ

高田 K 子　Takada, Keiko
①日本 ②北海道 ③美術 ④展覧会「Nonlocality」/ アルテピアッツァ美唄

船山 哲郎　Funayama, Tetsuro
①日本 ②北海道 ③美術、映像、デザイン ④リサーチ

ジェシー・リー・パーカー　Parker, Jesse Lee　他 1 名
①アメリカ ②神奈川県 ③その他 ④創作活動

宮田 君平　Miyata, Kumpei
①日本 ②福岡県 ③美術 ④創作活動

東野 哲史　Higashino, Tetsushi
①日本 ②東京都 ③美術 ④創作活動

久野 志乃　Hisano, Shino
①日本 ②北海道 ③美術 ④創作活動

吉村 理沙　Yoshimura, Risa
①日本 ②兵庫県 ③美術 ④公演「Co. 山田うん「結婚」/ 山田うんコレクティブダンサーズ「春の祭典」/ 札幌文化芸術劇場 hitaru クリエイティブスタジオ

樋浦 瞳　Hiura, Akira
①日本 ②茨城県 ③美術 ④公演「Co. 山田うん「結婚」/ 山田うんコレクティブダンサーズ「春の祭典」/ 札幌文化芸術劇場 hitaru クリエイティブスタジオ

坂口 千秋　Sakaguchi, Chiaki
①日本 ②東京都 ③美術 ④2018 年度自主事業 AIR プログラム コーディネーター

拉黒子 達立夫 / ラヘーズ・タリフ　Rahlc, Talif　他 2 名
①②台湾 ③美術 ④2018 年度自主事業 AIR プログラム招聘アーティスト

鮫島 弓起雄　Sameshima, Yumikio
①日本 ②東京都 ③美術 ④リサーチ

梅田 哲也　Umeda, Tetsuya
①日本 ②大阪府 ③美術 ④台湾 AIR 活動報告会 / よりどこオノベカ

永田 壮一郎　Nagata, Soichiro
①日本 ②東京都 ③音楽 ④子どもの文化芸術体験事業おとどけアート / 札幌市立西園小学校

福田 真知　Fukuta, Masakazu
①日本 ②滋賀県 ③美術、写真、映像 ④展示「きらめきの結晶体語 / 紡がれる物語」/To ov cafe

リリー・サーナック　Lily, Cernak
①②アメリカ ③美術 ④創作活動、リサーチ

アラン・サーナック　Alan, Cernak
①②アメリカ ③美術 ④創作活動、リサーチ

長坂 有希　Nagasaka, Aki
①日本 ②大阪府 ③美術 ④「カムイワッカへ、そして私たちの始まりへ」/CAI02、「大地の物語」/500m 美術館

ミオ・イム　Mio, Im
①②韓国 ③美術、写真 ④創作活動

植野 智子　Ueno, Tomoko
①日本 ②埼玉県 ③美術 ④創作活動

磯崎 道佳　Isozaki, Michiyoshi
①日本 ②北海道 ③美術 ④創作活動

山城 大智　Yamashiro, Daisuke
①日本 ②愛知県 ③映像、その他 ④「さっぽろアートステージ 2018」/SCARTS スタジオ

2018 11 November

船山 哲郎　Funayama, Tetsuro
①日本 ②北海道 ③美術、映像、デザイン ④リサーチ

田中 博　Tanaka, Hiroshi
①日本 ②北海道 ③写真 ④リサーチ

山城 大智　Yamashiro, Daisuke
①日本 ②愛知県 ③映像、その他 ④「さっぽろアートステージ 2018」/SCARTS スタジオ

白濱 雅也　Shirahama, Masaya　他 1 名
①日本 ②北海道 ③美術 ④リサーチ

中内 こもる　Nakauchi, Komoru　他 2 名
①日本 ②愛知県 ③演劇 ④公演「THE SAN-DAI」/ 演劇専用小劇場 BLOCH

中島 祐太　Nakajima, Yuta
①日本 ②群馬県 ③美術 ④子どもの文化芸術体験事業おとどけアート / 札幌市立本町小学校

野田 麻衣　Noda, Mai　他 18 名
①日本 ②東京都 ③演劇 ④公演「ToRow ～二匹の狼」/ コンカリーニョ

蓮見 孝　Hasumi, Takashi
①日本 ②茨城県 ③デザイン ④リサーチ

高田 恵篤　Takada, Keitoku
①日本 ②東京都 ③演劇 ④公演「ゴドーを待ちながら」/ 札幌文化芸術劇場 hitaru クリエイティブスタジオ

アラキ・コマン　Koman, Araki
①②フランス ③美術、デザイン ④創作活動、リサーチ

森 洋子　Mori, Yoko
①日本 ②北海道 ③音楽 ④創作活動

ウー・シュールアン　Wu, Shu-Lun
①②台湾 ③美術、工芸 ④2018 年度自主事業 AIR プログラム サポート

福士 恵二　Fukushi, Keiji
①日本 ②東京都 ③演劇 ④公演「ゴドーを待ちながら」/ 札幌文化芸術劇場 hitaru クリエイティブスタジオ

蔵田 章子　Kurata, Ayako
①日本 ②山口県 ③美術、映像、その他 ④「続けるための記録について _AIR 勉強会」参加 / さっぽろ天神山アートスタジオ

トムスマー・オルタナティブ　tomsuma alternative
①日本 ②富山県 ③美術 ④「続けるための記録について _AIR 勉強会」参加 / さっぽろ天神山アートスタジオ

渡邊 朋也　Watanabe, Tomoya
①日本 ②山口県 ③美術、デザイン、その他 ④「続けるための記録について _AIR 勉強会」ゲストスピーカー / さっぽろ天神山アートスタジオ

是恒 さくら　Koretsune, Sakura
①日本 ②宮城県 ③美術 ④「続けるための記録について _AIR 勉強会」参加 / さっぽろ天神山アートスタジオ

加藤 康子　Katou, Yasuko
①日本 ②北海道 ③その他 ④「続けるための記録について _AIR 勉強会」参加 / さっぽろ天神山アートスタジオ

水谷 朋代　Mizuya, Tomoyo
①日本 ②東京都③その他 ④「続けるための記録について _AIR 勉強会」参加 / さっぽろ天神山アートスタジオ

鎌田 洋子　Kamada, Yoko
①日本 ②北海道 ③美術 ④「続けるための記録について _AIR 勉強会」参加 / さっぽろ天神山アートスタジオ

佐藤 帆乃香　Satou, Honoka
①日本 ②新潟県 ③美術 ④「続けるための記録について _AIR 勉強会」参加 / さっぽろ天神山アートスタジオ

原 久子　Hara, Hisako
①日本 ②大阪府 ③美術 ④「続けるための記録について _AIR 勉強会」ゲストスピーカー / さっぽろ天神山アートスタジオ

大野 道乃　Oono, Michino
①日本 ②東京都 ③演劇 ④公演「ゴドーを待ちながら」/ 札幌文化芸術劇場 hitaru クリエイティブスタジオ

永山 智行　Nagayama, Tomoyuki　他 8 名
①日本 ③宮城県 ③演劇 ④公演「ただいま」/ シアター ZOO

黒田 大祐　Kuroda, Daisuke
①日本 ②広島県 ③美術 ④2018 年度自主事業 AIR プログラム招聘アーティスト

11 月 6 日 − 9 日
滞在成果展「an important bud came out / 大切な芽吹き」
ベッカ

11 月 13 日
滞在成果作品の上映会
ジュン・チョン

11 月 13 日 − 18 日
滞在成果展「フェニックス・プロジェクト」
リリー＆アラン・サーナック

11 月 18 日
Art and Breakfast day
アーティストトーク：中島 佑太、アラン・サーナック

11 月 23 日
保育園児向けワークショップ
アラン・サーナック

11 月 23 日 − 12 月 9 日
滞在成果展「ためらいからの気づき」
ラヘーズ・タリフ

11 月 25 日 − 27 日
続けるための記録について _AIR 勉強会 001

2018 12 December

12 月 16 日
Art and Breakfast day
アーティストトーク：黒田大祐、アラキ・コマン

12 月 14 日－18 日
滞在成果展「プルーム /BLOOM」
アラキ・コマン

高瑞　Kohsui
①中国 ②京都府 ③美術 ④創作活動、リサーチ

蓮見 孝　Hasumi, Takashi
①日本 ②茨城県 ③デザイン ④リサーチ

ジョニー・ナッシュ　Jonny Nash
①イギリス ②オランダ ③美術 ④「JONNY NASH & KUNIYUKI TAKAHASHI」/PRECIOUS HALL

オイカワ ユミ　Oikawa, yumi
①日本 ②北海道 ③その他 ④創作活動、リサーチ

ミドリ・ヒロセ　Hirose, Midori
①②アメリカ ③美術 ④リサーチ

荒木 悠　Araki, Yu
①日本 ②東京都 ③映像 ④リサーチ

高田 恵篤　Takada, Keitoku
①日本 ②東京都 ③演劇 ④公演「ゴドーを待ちながら」/ 札幌文化芸術劇場 hitaru クリエイティブスタジオ

福士 恵二　Fukushi, Keiji
①日本 ②東京都 ③演劇 ④公演「ゴドーを待ちながら」/ 札幌文化芸術劇場 hitaru クリエイティブスタジオ

大野 道乃　Oono, Michino
①日本 ②東京都 ③演劇 ④公演「ゴドーを待ちながら」/ 札幌文化芸術劇場 hitaru クリエイティブスタジオ

上ノ 大作　Ueno, Daisaku
①日本 ②北海道 ③工芸 ④子どもの文化芸術体験事業おとどけアート / 札幌市立ひばりが丘小学校

南 隆雄　Minami, Takao
①日本 ②フランス ③美術、映像 ④2018年度自主事業 AIRプログラム招聘アーティスト

あにめの いろは　Animeno Iroha
①日本 ②高知県 ③映像 ④上映会「ムーヴィング・ウィンター」/ 第二マルバ会館

ターナー・マーティン　Turner Martin
①イギリス ②高知県 ③映像 ④上映会「ムーヴィング・ウィンター」/ 第二マルバ会館

松田 壮統　Matsuda, Masanori　他 1 名
①日本 ②兵庫県 ③美術 ④「AFTER AIR」/ テラス計画

2019 1 January

1 月 13 日
s(k)now アーティスト・トーク「雪・冬・北方圏とアーティスト」
エリス・イーラエット、マドゥ・ダス、
コンスタンス・ヒンフライ、フランソワ・レミュー、島袋 道浩

1 月 16 日、17 日
公開制作
ロビン・ペタード

1 月 23 日
Art and Breakfast day
アーティストトーク：シモン・パラジ

1 月 29 日－2 月 10 日
写真展「Looking For Herring」
國分 蘭

ロビン・ペタード　Petterd, Robin
①②オーストラリア ③美術 ④創作活動

シャープ・クリスティ　Sharp, Kristy
①②オーストラリア ③工芸 ④創作活動

マドゥ・ダス　Das, Madhu
①②インド ③美術 ④2018 年度国際公募プログラム招聘アーティスト

コンスタンス・ヒンフライ　Hinfray, Constance
①フランス ②オーストリア ③美術 ④2018 年度国際公募プログラム招聘アーティスト

シモン・パラジ　Paradis, Simon
①②カナダ ③文芸 ④創作活動

ヒデミ ニシダ　Hidemi Nishida
①日本 ②北海道 ③美術 ④リサーチ

黒田 大祐　Kuroda, Daisuke
①日本 ②広島県 ③美術 ④2018 年度自主事業 AIR プログラム招聘アーティスト

フランソワ・レミュー　Lemieux, Francois
①②カナダ ③美術 ④2018 年度国際公募プログラム招聘アーティスト

ロベルト・アパリシオ　Aparicio Roberto
①②ベルギー ③美術 ④2018 年度国際公募プログラム招聘アーティスト サポート

エリス・イーラエット　Eeraerts, Elise
①②ベルギー ③美術 ④2018 年度国際公募プログラム招聘アーティスト

松田 朕佳　Matsuda, Chika
①日本 ②長野県 ③美術 ④2018 年度国際公募事業コーディネーター

蓮見 孝　Hasumi, Takashi
①日本 ②茨城県 ③デザイン ④リサーチ

寺田 剛史　Terada, Tsuyoshi
①日本 ②福岡県 ③演劇 ④公演 劇団千年王国「贋作者」/ 札幌市教育文化会館小ホール

永島 顕子　Nagashima, Akiko
①日本 ②神奈川県 ③美術、写真 ④創作活動

張 小船　Boat Zhang Xiaochuan
①②中国 ③美術 ④リサーチ

島袋 道浩　SHIMABUKU
①日本② 沖縄県 ③美術 ④2018 年度公募プログラム選考委員

國分 蘭　Kokubun, Ran
①日本 ②東京都 ③写真 ④写真展「Looking For Herring」/ さっぽろ天神山アートスタジオ

松村 沙読子　Matsumura, Saeko
①日本 ②埼玉県 ③演劇 ④公演「父と暮せば」/ シアター ZOO

剣持 直明　Kenmochi, Naoaki　他 1 名
①日本 ②東京都 ③演劇 ④公演「父と暮せば」/ シアター ZOO

上ノ 大作　Ueno, Daisaku
①日本 ②北海道 ③工芸 ④トークイベント「おとどけアート 2018 活動報告座談会」/ よりどこオノベカ

中島 祐太　Nakajima, Yuta
①日本 ②群馬県 ③美術 ④トークイベント「おとどけアート 2018 活動報告座談会」/ よりどこオノベカ

永田 壮一郎　Nagata, Soichiro
①日本 ②東京都 ③音楽 ④トークイベント「おとどけアート 2018 活動報告座談会」/ よりどこオノベカ

ウラ・マリーナ　Marina, Ura
①②台湾 ③映像 ④リサーチ

2019 2 February

2 月 10 日
写真展「Looking For Herring」アーティスト・トーク
國分 蘭、中村 絵美

2 月 10 日
続けるための記録について _AIR 勉強会 002
ハイジ・ヴォーゲル

2 月 12 日
s(k)now アーティスト・トーク「都市と都市」
コンスタンス・ヒンフライ、フランソワ・レミュー、三原 聡一郎

2 月 14 日
s(k)now 滞在成果報告トーク「北海道・台湾・上海での公共彫刻リサーチ」
黒田 大祐、寺嶋 弘道

2 月 16 日
s(k)now 滞在成果報告トーク「北海道立北方民族博物館での滞在制作」
南 隆雄、山下 俊介

2 月 17 日
Art and Breakfast day
アーティストトーク：松田 朕佳

高瑞　Kohsui
①中国 ②京都府 ③美術 ④創作活動、リサーチ

野口 里佳　Noguchi, Rika
①日本 ②沖縄県 ③写真 ④創作活動

蓮見 孝　Hasumi, Takashi
①日本 ②茨城県 ③デザイン ④リサーチ

ハイジ・ヴォーゲル　Vogels, Heidi
①②オランダ ③美術、映像 ④「続けるための記録について _AIR 勉強会 002」ゲストスピーカー / さっぽろ天神山アートスタジオ

中村 絵美　Nakamura, Emi
①日本 ②北海道 ③美術 ④「Looking For Herring 」トークイベント / さっぽろ天神山アートスタジオ

三原 聡一郎　Mihara, Soichiro
①日本 ②京都府 ③美術 ④2018 年度公募プログラム選考委員

トムスマ・オルタナティブ　tomsuma alternative
①日本 ②富山県 ③美術 ④創作活動、リサーチ

トム・グルンスティン　Groenestyn, Tom
①②オーストラリア ③美術、映像、その他 ④創作活動、リサーチ

ティム・スタアナ　STA-ANA, TIM
①②オーストラリア ③美術、映像、その他 ④創作活動、リサーチ

山本 高之　Yamamoto, Takayuki
①日本 ②愛知県 ③美術、映像 ④2018 年度公募プログラム選考委員

南 龍雄　Minami, Takao
①日本 ②フランス ③美術、映像 ④2018 年度自主事業 AIR プログラム招聘アーティスト

植村 絵美　Uemura, Emi　他 1 名
①日本 ②カナダ ③美術 ④リサーチ

トニー　Toney
①②アメリカ ③美術、デザイン ④創作活動

福田 真知　Fukuta, Masakazu
①日本 ②滋賀県 ③美術、写真、映像 ④創作活動、リサーチ

ヨンミ・リー　Lee, Young-mi
①②韓国 ③文芸 ④創作活動

2 月 23 日
s(k)now 滞在制作活動成果発表オープニング・トーク
エリス・イーラエット、マドゥ・ダス、コンスタンス・ヒンフライ、フランソワ・レミュー、山本 高之

2 月 23 日 – 3 月 3 日
s(k)now 滞在制作活動成果発表
エリス・イーラエット、マドゥ・ダス、コンスタンス・ヒンフライ、フランソワ・レミュー

2 月 23 日 – 3 月 3 日
アンオフィシャルエキシビション
トムスマ・オルタナティブ、黒田 大祐、松田 朕佳、永島 顕子、高瑞、トム・グルンスティン、ティム・スタアナ、マイケル・エディ、関根 ちあみ、深澤 優子、アラン・サーナック

2019 3 March

鈴木 悠哉　Suzuki, Yuya
①日本 ②北海道 ③美術 ④創作活動、リサーチ

木野 彩子　Kino, Saiko
①日本 ②鳥取県 ③ダンス、映像 ④創作活動

ミッシェル・アンジェリカ・カビルド"ミカ"　Cabildo, Michelle Angelica "Mica"
①②フィリピン ③美術 ④創作活動、リサーチ

安藤 桑作　Andou, Elsaku
①日本 ②奈良県 ③美術 ④展示「OST 3.11 in Sapporo～沈み行く記憶の淵で」/ 本郷新記念札幌彫刻美術館

石塚 雅子　Ishtzuka,Masako
①日本 ②埼玉県 ③美術 ④展示「OST 3.11 in Sapporo～沈み行く記憶の淵で」/ 本郷新記念札幌彫刻美術館

半谷 学　Hangai, Manabu
①日本 ②北海道 ③美術 ④展示「OST 3.11 in Sapporo～沈み行く記憶の淵で」/ 本郷新記念札幌彫刻美術館

白濱 雅也　Shirahama, Masaya　他 1 名
①日本 ②北海道 ③美術 ④展示「OST 3.11 in Sapporo～沈み行く記憶の淵で」/ 本郷新記念札幌彫刻美術館

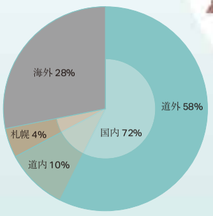
横湯 久美　Yokoyu, Kumi
①日本 ②東京都 ③美術、写真 ④展示「OST 3.11 in Sapporo～沈み行く記憶の淵で」/ 本郷新記念札幌彫刻美術館

曽我 英子　Soga, Eiko
①日本 ②イギリス ③美術 ④リサーチ

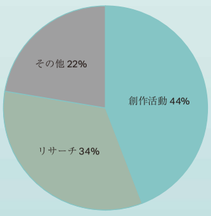
3 月 17 日
Art and Breakfast day
アーティストトーク：ミッシェル・アンジェリカ・カビルド" ミカ"

滞在スタジオ利用者データ (2018 年度)

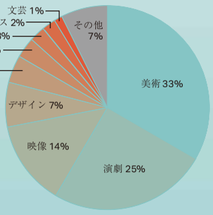
活動拠点



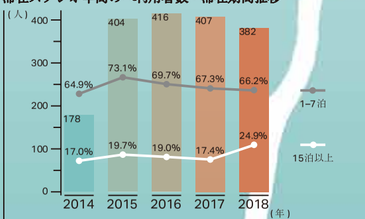
滞在中の活動内容



申請者の文化・芸術活動の分野



滞在スタジオ年間のべ利用者数・滞在期間推移



2014 年 5 月 31 日施設オープン時からの推移

AIR 1: Exchange

ネットワーキングのための交換プログラムについて

さっぽろ天神山アートスタジオと国際的な文脈で活動する組織・グループとのコラボレーション(連携)をもとにした、アーティスト・イン・レジデンスプログラムを2018年秋に実施しました。
アーティスト・イン・レジデンスのまえとあと、または最中には、様々な関係性(つながり、ネットワーク)が生み出されます。まえとあとその最中に生まれる関係性こそ、アーティスト・イン・レジデンス事業の成果であろうと考えています。事業開始から5年目となるさっぽろ天神山アートスタジオには、オーガナイザー同士の、アーティストとオーガナイザーの、アーティストとアーティストとのシンプルだったり複雑に入り組んだりしている多様なネットワークが紡がれてきました。2018年の秋には、このネットワークのいくつかを選び、新たな関係性を構築するために海外招聘と日本人、合計3人のアーティストを迎えました。

3名の招聘アーティストのうち1名は、さっぽろ天神山アートスタジオ(北海道)と台湾台東地域から、お互いのアーティストを派遣しあう地域間の交換プログラムとして実施しました。

【招聘アーティスト】
Jun Chong / ジュン・チョン 映画監督 (シンガポール)× 札幌国際短編映画祭
Rahic Talif/ 拉黒子・達立夫 / ラヘーズ・タリフ アーティスト(台湾)× Taitung Dawn Artist Village, TEC LAND ARTS FSTIVAL 台東/台湾
Kuroda Daisuke 黒田 大祐 アーティスト(日本) × 対馬アートファンタジア
【交換プログラム：台湾台東へのアーティスト派遣】
Testuya Umeda 梅田 哲也 アーティスト(日本) × TEC LAND ARTS FSTIVAL 台東/台湾

AIS プランニング / さっぽろ天神山アートスタジオの活動アーカイブ

AIR 2: UCCN

UCCN アーティスト・イン・レジデンスプログラムについて

日本最北の島の県庁所在地で、日本唯一のユネスコメディアアーツ都市札幌は、さっぽろ天神山アートスタジオの運営チームと連携し、国際招聘プログラムを実施します。
さっぽろ天神山アートスタジオは2014年に開設したAIR施設で、世界各国のアーティストや研究者に札幌での中長期的な滞在・制作の機会を低料金で提供しています。

この招聘プログラムでは、私たちは、1組のアーティストに約200万の人口を抱える都市と自然が共存する札幌の地域特性を、60日間に渡りリサーチする機会を提供します。

私たちは、メディアアーツ分野での若手アーティストの活動を支援し、UCCNの都市間交流を活発化させ、そして札幌の文化活動に新たな刺激がもたらされることを期待します。（札幌市）

【招聘アーティスト】
Francois Lemiex / フランソワ・レミュー（カナダ）
Constance & Alexander Hinfray / コンスタンス & アレクサンダー・ヒンフライ（オーストリア）

冬のAIR

このUCCNプログラムの招聘アーティストは、2014年度から毎冬取り組んでいる国際公募によるAIRプログラムs(k)now[snow + know]に包括され、ほかの公募と招聘アーティスト3名とともに、60日間に渡り、さっぽろ天神山アートスタジオを拠点に招聘アーティストが「雪・冬・北方圏」をキーワードに、北海道内・札幌市内を歩き、訪ね、人と会い、話し、リサーチや制作活動を重ねてきました。それぞれの活動成果を、展覧会形式、パフォーマンスなど多岐にわたる方法で形にしたもの・ことを札幌の人々と共有しました。公募の選考委員を務めたアーティストの訪問やコーチングも実施しました。彼らのほか数名の日本人、外国人アーティストがさっぽろ天神山アートスタジオに滞在しており、一時的なコミュニティが形成され、まるでアートスクールのような活気に満ち、偶発的な活動が多く生まれることとなりました。

© 永島潤子

フランソワ・レミュー

＜プロフィール＞
1979年カナダ、ケベックシティ生まれ。現在モントリオールを拠点に活動。社会的実践、出版物およびリサーチを融合させ、共通性と価値概念についての集団的思考を誘発させるような展覧会、記録映像または出版物、状況を作り上げている。アーティストコレクティブ journee sans culture (文化の無い日)、ACTION INDIRECTE、Entrepreneurs du Commun collectivesの設立メンバー。We left the warm stable and entered the latex void (2008-2010)などのプロジェクトを始動。出版物Le Merle, Cahiers sur les mots et les gestesの共同編集者でもある。

＜プロジェクト概要＞
今回の滞在制作期間では、結晶化についてのリサーチを行った。物理的、化学的なプロセスは、その場の環境（気温、気圧、湿度など）に大きく影響される。また、複雑なプロセスが目に見える形になることを結晶化というメタファーとして採用できると考えた。アイデア、友人関係、集団としてのプロジェクト、学びのプロセス、都市、ネットワークなども結晶化と呼べるだろう。滞在制作活動成果発表期間の展示で取り扱った素材などは、そのまま滞在制作活動のプロセスのスケッチである。

コンスタンス & アレクサンダー・ヒンフライ

＜プロフィール＞
コンスタンスはビジュアル、パフォーマンス アーティスト。2014年Quimper Art school（フランス）を卒業後、2017年Sandberg Institut（アムステルダム）を修了。主なリサーチ対象はインターネットにおける伝承、森林エコシステムの知能。アレクサンダーは情報科学者。数の文化と植物の知性に関心がある。マネージメントを勉強後、オーストラリアのリンツを拠点に活動。1960年頃、農学者の祖母がメキシコ付近でバルバスコのプランテーションで働いていた。（バルバスコという植物の根には天然の黄体ホルモンが含まれており、この成分から世界初の避妊薬が作られた）。私たちは、ヒンフライ家に伝わる詩や植物に対する好奇心を祖母のカレン、母のオダから受け継いだ。このプロジェクトは、植物に関わる古く馴染みある文化およびドイツのロマン主義との関係性を現代の言葉に翻訳する試みである。

＜プロジェクト概要＞
「Under the s(k)now blossom the abandoned. －雪の下で咲く、見捨てられたもの」というタイトルで制作されたパフォーマンス・シリーズを発表する。オーストリアと日本に生息する、どこにでも生えている私たちの身近にある植物にインスピレーションを受けてパフォーマンス作品を制作した。

s(k)now 2018-2019におけるコンスタンス・ヒンフライ(UCCN)の活動例

同時期に4名の招聘アーティストに加え、自主的に滞在制作活動を行っているアーティストたちがそれぞれの活動を行いました。お互いの活動に対し関心を寄せ、情報交換を行う、視察に同行する、共同で発表するなど適宜関わりを持ち会いました。

1月4日（金）
さっぽろ天神山アートスタジオ到着

1月8日（火）～9日（水）
Sapporo Tour
モエレ沼公園
大倉山ジャンプ場、札幌オリンピックミュージアム
北海道博物館

1月13日（日）
アーティスト・トーク 雪・冬・北方圏とアーティスト
会場：札幌市民交流プラザ1階 SCARTSコート
モデレーター：島袋 道浩（アーティスト、2018年度国際公募プログラム選考委員）

1月26日（土）
札幌芸術の森美術館

1月27日（日）
植物とアイヌ文化のリサーチ
場所：アイヌ文化センター

1月28日（月）
札幌市立大学 写真工房で撮影

1月30日（水）- 2月1日（金）
網走・知床に旅行

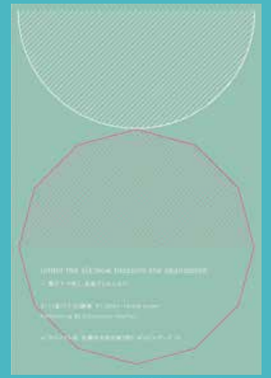
2月6日（水）
パフォーマンス
会場：天神山児童館

2月12日（火）
アーティスト・トーク　都市と都市
会場：札幌市民交流プラザ1階 SCARTSコート
モデレーター：三原 聡一郎（アーティスト、2018年度国際公募プログラム選考委員）

2月23日（土）～3月3日（日）
滞在制作活動成果発表・展覧会
会場：さっぽろ天神山アートスタジオ スタジオC

3月1日（金）
The Ball of the migratory birds and the wild seeds（バンド名義）でのパフォーマンス
会場：salon タレ目

3月2日（土）
ファイナル・プレゼンテーション（トーク）
会場：さっぽろ天神山アートスタジオ スタジオC
アーティスト・イン・スクールトークゲスト：山本 高之（アーティスト、2018年度国際公募プログラム選考委員）


タレ目のフライヤー　デザイン：菊池 和宏（バックヤード）

© 小牧寿里
© 小牧寿里

今日のなぞなぞ

フランソワ・レミュー（カナダ）

私の国、それは国ではなく、冬です。[1]

親愛なる読者様、

最初に AIR プログラム s(k)now [snow + know] 公募情報を読んだとき、知り合いのアメリカ人科学者であるマーク・タッカー博士を思い出しました。彼は、ひとひらの雪（雪片）をなぞなぞとみなし、そこから思考に挑戦することへと私を向かわせた人です。

マークと私は、2016 年 3 月のさわやかな日にケベックで出会い、結晶体を使った彼の作品について話していました。その時に、雪片の結晶構造とは、それが形成された時に取り囲んでいた大気条件の不気味で正確な記録なのだということを、教えてもらいました。空気の質、温度、湿度、風速、気圧などのすべての特徴が、雪片のフォームの中に、残されています。雪片をとても美しい複合体として見せているものとは、彼によると、六角形の結晶構造で表現された環境の力、だというのです。マークのこのコメントを聞いた時、私は、雪とはほとんど関係のない短編小説を思い浮かべました。イタロ・カルヴィーノの短編、「スパイラル」の中で、軟体動物の人生経験、その非常にゆっくりとした石灰質の増殖が物語を成しています。海辺の岩の上にあり、行ったり来たりする波に叩きつけられ、鉱物でできた軟体動物の住処は、7 億年を超える月日をかけて、カラフルな渦巻き型（スパイラル）に徐々に変化します。カルヴィーノの殻付き無脊椎動物には声があり、唯一であると言うしかない体験を、順を追って話していきます。「型？私には何もなかった。つまり、私は自分がそれを持っていたとは知らず、いやむしろ、あなたがそれを持つことができるとは、知らなかった。私は、手当たり次第にどんな方向にも成長した。」マークは、面白がっている様子で、黄色いマグカップからホットチョコレートをすすりながら、著者の名前を尋ねました。

マークと私は、彼のサイドプロジェクトのことで、最初に知り合いました。彼が、結晶化したばかりの、しばしば損傷した雪片の詳細な写真を撮るために、顕微鏡を使っていることを知ったのです。これらの写真の白黒の画像は、懐古趣味の都市景観、なじみのない、時を超越した現実を描写しているようでした。大友克洋の「アキラ」に詳しい人ならば、この画像は、彼の終末論的なネオ東京の老化、崩壊、ブルータリズムの建築などを思い起こさせるでしょう。もっとよく見ていけば、ブルーノ・タウトの結晶構造の建築と、彼がイニシエートしたコレクティブ「Die Gläserne Kette(クリスタル･チェーン)」を連想する人がいるかもしれません。世界大戦間の大不況の中、ワイマールでは、建築家、批評家、芸術家、作家で構成されたこの匿名の集団（コレクティブ）が、ドイツ表現主義の力強いドローイングでまだこぬ文明開化を描き、鋭い政治的観察眼で溢れた手紙を、やり取りしていたのです。彼らは、この集団間の手紙の往復の中で、都市景観と居住地が鉱物や結晶体の形でパターン化され、共同社会の考えを投影したガラス構造の建築を草稿していました。雪片、建築、芸術の間のこれらのつながりに、興味を持ってもらいたかった私は、マークが退屈していたのを見てとりました。彼にとって、このようなつながりは、ほとんど意味をなさないようでした。彼が、真の芸術は自然と数学の中にしか見られないという見解を丁寧に述べた時、私は彼に、アート作品自体を、狡猾で非正統的なプラクティスとプロセスの結晶化した結果として、または注意深く作られたなぞなぞとして考えるようけしかけました。彼は笑いましたが、わかりづらかったようです。のちに、メタファーとして解釈し、結晶化のプロセスを考える出発点として彼の写真を使用するための許可を、もらうことができました。

[1] これは、ケベックの詩人でありフォークシンガーの Gilles Vigneault の一節です。 1964 年に書かれたこの有名な一節は、冬は共有された形態であるという考えを示しています。

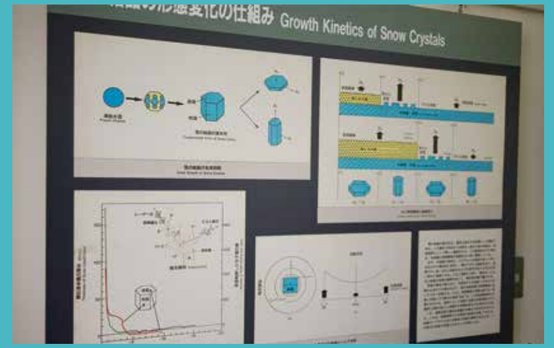
私の日本の友人、植村絵美とモントリオール出身のマイケル・エディの強い勧めのおかげで知った、著名なさっぽろ天神山アートスタジオでのレジデンス・プログラムのために、私がもうじき北海道に旅する予定だったことを、当時、マークは知りませんでした。

初めての札幌で数日を過ごした後、2019 年 1 月、コーディネーター（小田井真美と坂口千秋）が、中谷宇吉郎教授の仕事について、教えてくれました。中谷教授は、さかのぼること 1941 年に、人工の雪の結晶体を作成した最初の科学者であり、札幌の低温科学研究所（ILTS）の代表的な人物でした。その後すぐに、ILTS にて結晶成長、雪と氷の結晶の表面特性、さまざまな最新光学顕微鏡技術の開発を研究していた佐崎 元博士とのミーティングを、アレンジしてもらいました。彼と彼の同僚が、六角形の雪片の中心部の周りの形の成り立ち、氷結晶の個々の分子層の成長または後退をどのように直接観察しているのかを学びました。

水の粒子としての木材ブロック　© フランソワ・レミュー 2018

研究室のツアーは、２番目の冷蔵室の中にありほとんど冷凍庫のような冷蔵室にて、クライマックスに達しました。冷蔵庫の中の冷凍庫。これらの入れ子になった実験室の不思議な空間は、なぜか私の目には、アーティストのスタジオのように、馴染みがあるように映りました。過去のプロジェクトや失敗した試みの遺物が、現行の実験や進行中の研究と複数のプロジェクトが並行して展開する場にて、共存しています。

この考えをさらにふくらませるため、同行した松田朕佳に、実験に参加してもらいました。微量の自虐的なユーモアから端を発し、私たちは次の事を考え始めました。おそらく、-50° C で呼吸が見える状態になったら、音波や音楽が、私たちの冷たい息の蒸気の中に、分子レベルで記録できるような独特のパターンを形成しながら、その痕跡を示すのではないだろうか。なんてばかげた考えでしょうか。私たちへの効果を記録すること、または測定、観察する手段が、少なくとも科学的にはなかったことを考えると、このアイデアが失敗することは目に見えていました。 しかし、寒さについて考え、その重大な影響を別のスケールで概念化するための場をきりひらいていくためには、この言動と問いは芸術美溢れて有望であるように思えました。そういうわけで、冷凍庫の中に松田朕佳が加わることになりました。寒さと音楽の形式上の相互作用が、彼女の冷たい息の結晶の中で検出されるかどうかを確認するために、彼女にメロディカでいくつかの音色を出してもらいました。素敵なメロディカの音色は、少なくともありのままの耳と目には、普段と変わらないようでした。



雪の結晶の発育動態　© フランソワ・レミュー 2018

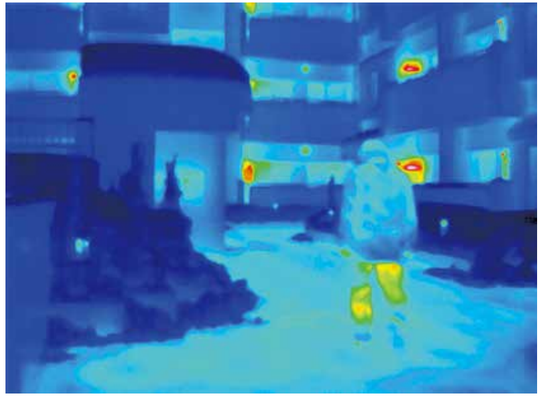
松田联佳による蒸気波　ビデオ静止画　© フランソワ・レミュー 2018

« なんども挑戦した。失敗ばかりした。気にしない。また挑戦。また失敗。よりいい失敗をするんだ。» - サミュエル・ベケット

わたしは、再び行動し始めました。サーモグラフィ・カメラを手にして歩く、-15° C の札幌の市営地下鉄南北線は、本当に素晴らしかったです。サーモグラフィ・カメラのアングルを、街並みや、ひしめき合っている人々、運転する人、通勤する人らに向けました。一部の画像は、街のインフラストラクチャと構築環境から熱が発散され、どのようにエネルギーが失われたかを明確にとらえていました。ですが、低温に対する身体の脆弱性を、カメラはほとんど記録しませんでした。ダウンタウンで撮影された 20 代の子達は、凍るような寒さにもかかわらず、コートのジッパーを閉じず手と頭をむき出しにし、自由に身振りし、笑いながら頭を荒々しく動かして真冬にいちゃついていましたが、平気そうに見えました。サーモグラフィ・カメラを通して見ると、都市の公共交通システムと地下通路は、私たちの衣服と融合して、単一の保護層を形成しているかのようでした。あたかも、これらの都市インフラが、周囲の風景との相互作用から結晶化して、かくまうための殻を形成しているかのようでした。これらの大きな殻のような被服の手のひらの上でしっかりと抱きしめ合っていれば、そこのコミュニティには、帽子と手袋はほとんど必要ありません。

雪囲いと雪つり（札幌周辺で降雪から苗木や灌木を保護するために毎年建設される竹と荒縄の集合体）さえ、この考えをなんとなく説明しているようです。研究所でのまだ新鮮な経験を思いだしながら周りを見回すと、竹と荒縄は、氷の結晶と雪片の六角形の分岐する構造を反映した方法で組み立てられているように見えました。これらの構造が与えてくれるプロテクションという面について考えると、私の心は、ブルーノ・タウトの建築スケッチ（1918 年に描かれた結晶体のような家で、住人が内向的に感じる時は、家のガラスの壁が閉じ、彼らが社交的であると感じたときに開く。）の中の葉のイメージに戻ってきました。タウトのビジョンの中では、建物は、プロテクションとコミュニティ両方に対しての揺れ動く必要性の間で、居住者の気分に有機的に適応し、開閉するのです。それは建物自体が呼吸しているかのようです。

さっぽろ天神山アートスタジオに戻ると、みんながキッチンで集まって大規模な食事を準備していました。材料はまな板の上を飛び、煮込んだシチューで、おいしいそうな香りと忙しそうな雑音が空間を満たしていました。レジデンシーの期間は、ほぼ終わっていました。ビールが配られ、全員が集まって夕食を準備しました。別の滞在アーティストであるマドゥが用意した美味しい日本酒を飲みながら、私は、「レジデンスとは主につながりを作ること、プロテクションでありつつもオープンな環境で、コミュニティを思いがけない方法で結晶化することである」、と考え始めていました。バスルームに向かう途中で、さっぽろ天神山アートスタジオの建物のメインホールを横断しました。2 人の子供が、非常に小さな円形のテーブルで卓球をしていました。ボールが床に転がり落ち、彼らの手の反応が間に合わず、ホールの真ん中まで転がって行きました。



サーマル・アイ　ビデオ静止画　© フランソワ・レミュー 2018

その転がっていったボールをたどると、まるでそれこそが目的であったかのように、さっぽろ天神山アートスタジオのメインホールに立っていました。 ボールを見下ろすと、私は再び見慣れた結晶体に直面したのです。

天神山のコア：コミュニティ。　© フランソワ・レミュー 2018

周囲の音響の中、まな板の上のナイフがカチャカチャ鳴る音、子供たちの甲高い声、興奮した笑いのガヤガヤした音の真ん中で、この中央の六角形のタイルの周りに個々の分子が一層ずつ連なり、コミュニティが結晶化しているように感じられました。

たくさんの幸せが訪れますように。
フランソワ・レミュー
モントリオール、2019 年 12 月 1 日

さっぽろ天神山アートスタジオの皆さんの信頼とおもてなしに、深く感謝いたします。札幌市、佐崎元博士（北海道大学 低温科学研究所）、須之内元洋博士（札幌市立大学）、マーク・タッカー博士、デイビッド・トーマス博士、ケベック州芸術委員会、カナダ芸術評議会に感謝します。

Archive of artists: Photo, Video and Text

雪[s(k)now]の下にさく、見捨てられたもの

コンスタンス&アレクサンダー・ヒンフライ(リンツ/オーストリア)

1.レジデンスの概要

北海道とオーストリアの植物と精霊信仰に関連した、民族と信仰についてのリサーチを行った。アイヌの先住民文化と口伝えによる伝統、また彼らがダンスと歌を通じて信仰を語り継ぐことから、自分のルーツについて調べ、現代のボディーランゲージの重要性を考察した。

「アンダー・ザ・スノー・ブロッサム・ジ・アバンダンド（雪[s(k)now]の下にさく、見捨てられたもの）」は、プロジェクトの名前であるとともに、2019年1月4日から3月4日まで行われた、さっぽろ天神山アートスタジオでのレジデンスプログラム、s(k)nowのプログラム・タイトルからきている。

私、コンスタンスと兄のアレクサンダーは、家族のルーツを調べることからリサーチを始めた。農学者だった祖父のウィッチは、1960年代メキシコで最初の避妊薬として使われていた植物、バルバスコというヤムイモのプランテーションで働き、その後オーストリア・ザルツブルグで過ごした。

祖父は自然への造詣が深く、詩を書き哲学にも精通していた。森の中を歩いている時、祖父がどのように植物・昆虫・動物・太陽、そして月が繋がっているのかを話してくれた。その時、全てが深い意味を持っているように見え始めた。

そこから植物と儀式そしてそれに関係のある伝説、というプロジェクトを作ろうと考えた。

北海道とオーストリアには二つの独特な気候がある。寒い気候に特化した生態系、ツンドラとタイガである。

ザルツブルグの祖母の家の周りの雪原を観察している時、想像の中にあるような、カラフルに色づいた大きな花を見つけられると思っていた。でも、そこに唯一生きていたのは雪の下で眠っていた、小さな小さな緑のハーブだけだった。調べてみると、たくさんの形の違う生き物が土の中にいるのを見つけた。そうしてハーブの世界にはまっていった。

植物の世界では、何かが眠っていると考えている。それは目に見えなくて、でも生きている。人間は常に生産性を追い求め、良い状況であることを求められる。その代わりに、様々な感情と弱さを受け入れることを学んでいる。 個々のアイデンティティとこれまでの生き方によってそれぞれが独自の方法で、別の種類の植物が育っていくように成長するべきだと思う。

私たちは、様々な風を受け入れていくことで学ぶ渡り鳥だと思っている。そして違う大陸にたどり着き、新しい種を蒔く。

2.2019年1月 SCARTSでのパフォーマンス

オーストリア、ザルツブルグと映像をつなぎ、カリン・ウェンデンバーグが参加。「バレリアン（セイヨウカノコソウ）」という植物と、「ハーメルンの笛吹き」(1300年頃ドイツ）についてのパフォーマンスを展開した。

バレリアンは薬草で、春と夏に淡いピンクの花が咲く。 ザルツブルグの山の頂上、雪の中で実際に見つけたことがある。その植物の根は、気持ちを落ち着かせる効能を持つ。

バレリアンに関連する伝説は「ハーメルンの笛吹き」。ハンサムで、色鮮やかな格好をした男の話。ザクソン地方(ドイツ)にあるハーメルンの村は、ネズミの被害が大きく、解決策もなく困り果てていた。その男は笛を吹くのがとても上手だった。ある晩、男が村中で演奏すると、ネズミは笛の音に魅了され彼について川へ。村には平穏が訪れネズミは溺れた。翌日、その外国人は報酬を求めたが村人はこれを断わった。その夜、彼はまた笛を吹き始めた。今度は村の子供達が彼の笛に魅了され、彼について川へ。そして溺れて死んだ。バレリアンはネズミと猫を惹きつける植物である。伝説の謎には（バレリアンを使ったという）この説がもっとも合っている。

パフォーマンス協力：松田朕佳

3.2019年3月 パフォーマンス、Salonタレ目

さっぽろ天神山アートスタジオでの滞在製作中、詩と音楽好きなアーティストが集まり、“The Ball of the Migratory Bird and Wild Seeds”というバンドを結成した。 2月の間中、天神山でリハーサルを繰り返し、2019年3月に最初のコンサートをSalonタレ目という札幌のバーで行なった。松田朕佳はタンバリンを演奏し、フランソワ・レミューはメロディカ、トムスマがギター、深澤優子はキーボードとボーカル。漆崇博がセカンドギター、コンスタンス・ヒンフライが作詞とメインボーカル。

数週間という短い期間でプロジェクトを行うことで、関係性は強くなり得るものが沢山あった。天神山でのレジデンシーの美しい終わり方だった。

家族という共同体に属している私がここに来て、レジデンス中に独自の小さな共同体を作り上げた。

4.結論

さっぽろ天神山アートスタジオでの滞在制作は、とても貴重な機会だった。
今回がアーティストとして最初の大きなプロジェクトだったが、アート分野のプロフェッショナルが、「私が持つ何か」を待っていてくれたことは大きな喜びだった。初めての日本旅行ができたのもとても良い経験だった。

また、オーストリアの家族とのプロジェクトを作る良い機会だった。祖母は私たちが祖父の人生を語り、祖父との記憶を思い返したことをとても喜んでくれた。
祖父の生態系と植物への興味から、アイヌの自然への関わり方への共通点を調査 。アイヌの儀式と彼らの環境へのつながりの強さに驚かされ、それが一番大きなインスピレーションとなり、札幌にいた二ヶ月間の間探求した。

忘れられない日の話をして、このレビューを終わろうと思う。小田井真美さんと松田朕佳さん（コーディネーター）とともに網走に行った日のこと。 アーティストの南隆雄さんと温泉で夕食後、私たちは朕佳と一緒に数時間眠り、朝5時に起きた。

網走駅について知床方面の列車に乗ったが、午後のバスで札幌に戻ることになっていたので、知床にはたどり着けなかったが小さく美しい漁村に立ち寄った。

太陽はとてもとてもまばゆく輝き、海は完全に凍っていた。
海は灰色と白の氷の塊に姿を変えていた。
なんとか海の上を歩き、そして埠頭の先端にたどり着いた。
そこには美しい鷲がいて海を見ていた。

Archive of artists:
Photo, Video and Text

オオワシだ！

世界最大の鷲、冬の季節に北海道に来る。彼は私を見て私は彼を見た。5メートルの距離でお互いを見つめ、彼は静かに左の方角の知床山脈に去った。

Wow!

AIR 3: s(k)now

国際公募プログラム s(k)now [snow + know] について

札幌市は積雪寒冷地に200万人もの人が暮らす世界でも珍しい大都市です。その独特な都市生活を支える存在として、市役所の機構には雪対策室といった専門部署も備えられています。1972年に開催された冬季オリンピック札幌大会で、札幌は都市化を加速させました。都市生活を支える独自の除雪のしくみ、ロードヒーティングや地下道といったインフラや交通、人々の日常的な行動や所作、さらにはスポーツ、雪まつりといったイベントに至るまで、冬・雪に関する経験や時間の膨大な取り組みのひとつひとつは都市を生成するさまざまな創造力や知恵となり、自然との共存の試みの中に現れています。このように日本における札幌、北海道を眺めるとき、北の果てともいえるこの地域は実に独特な自然環境や人の営み、歴史を有して北方圏の南方に位置しているとわかります。国際公募プログラム　s(k)now [snow + know]では、札幌市・北海道の多面的な環境および、プログラムキーワード「雪・冬・北方圏」に反応したアーティストの提案、アイデアを形にすることによって、わたしたちの周囲にある、またはあると思い込んでいる境界線を悠々と越えていく試みにしたいと考えています。(2014年度から毎冬取り組んでいる国際公募によるAIRプログラムです。)

【招聘アーティスト】

Elise Eeraerts / エリス・イーラエット(ベルギー)
Madhu Das / マドゥ・ダス(インド)
Takao Minami / 南 隆雄 (日本)

AIS プランニング / さっぽろ天神山アートスタジオの活動アーカイブ

© 小牧寿里

© 國分蘭

Sapporo Tenjinyama Art Studio

P00

[*Sapporo Tenjinyama Art Studio*, and What is "Artists-in-Residence"]

The origin of *SAPPORO TENJINYAMA ART STUDIO* was when a municipal building was converted into artist residencies. The idea was first introduced to us that *SAPPORO TENJINYAMA ART STUDIO* would be “a public facility to make exchanges between the public and the arts" and even though we were the ones who were applying to operate this new facility, there was a general confusion about its status and yet here we were explaining it to the public. However, this point of confusion was also an indication of the fact that an unprecedented cultural facility had started up in Sapporo city.

Our proposal is that by using this facility as a base for the Artist-in-residence program, a crossing point would emerge between two different lives; that of the citizens who use the facility as a drop-in or a community center, and that of the artists who use the facility as a temporary accommodation where they live daily life.

The community center is familiar to the public as it provides the space to share and discuss their everyday affairs. The Artist-in-residency is the space of experiment and an opportunity to challenge, in a slightly different way, things we have in common - if only it could be done. These two ways of using the space may sound similar at first, but there is in fact a big difference between the two.

As the artists "temporarily" live there, the facility of the Artist-in-residency delineates a certain time, framed within the ongoing stream of everyday life and as such differs from other typical cultural facilities whose purpose is to provide space for public presentations. That being said, the state of mind of the artists in the temporary stay doesn’t correspond exactly to how their minds are in their actual daily life. There is no doubt that some small, and even some dramatic and intentional differences from ordinary life work well on the artist’s creative activities. Through this situational change artists begin to move away from "the quotidian". It could be likened to the difference in somebody’s state of mind depending on whether they are at home, at work or going out on an excursion. It is relatively easy to imagine that spending time in an unusual place can give you the opportunity to encounter new things and to reexamine habits that one forms in the course of doing things. The reason Artist-in-residence exists is to meet the desires of artists seeking this opportunity.

When doing the management work for the Artist-in-residence, I keep in mind that AIR has to be a space to appreciate "someone's particular reality" that doesn’t necessarily fit with the majority’s view of what reality is in the democratic world. Even if it differs from the majority view of things and even if it is not appreciated, or not yet recognized - it is a valid reality belonging to the artist. In this society, it is crucial for artists to have a space that won’t neglect the realness of their minority viewpoint and one that allows their viewpoint to exist in the realm of myriad possibilities. It’s my wish that the space can create such an interaction with people, and that this interaction can sustain someone’s life.

As a cultural facility in Sapporo-city, *SAPPORO TENJINYAMA ART STUDIO* aims to be a platform to provide a slightly altered situation while still being part of the continuum of everyday life. In this way, the artists and public who are the main users of the facility, begin to open a path towards creating the type of public they want to be, and they can pursue this ideal without being encumbered by the dictates of daily life.

That is to say, *SAPPORO TENJINYAMA ART STUDIO* isn't just a facility (hardware), it consists of us all - the operators, the public and the artists - creative behaviors (software) is having ideas and actions, and putting them into practice. The building is their physical crossing point, and SAPPORO *TENJINYAMA ART STUDIO* is "the fresh activity" for us to live in the specious present.
Box (= building) is just a box - as things are what they are. What we have to do is to create activities inside and manage to use the box.

結晶化 Crystalization

5 years results between 2014 and 2018

P01

Renewable management - Creating shared space and time
First of all, a principal outcome was the establishment of *SAPPORO TENJINYAMA ART STUDIO*. Following the idea of "change of use", the municipal building was converted into an Artist-in-residence for the local area. The establishment of this was made in an unusual way. We managed to follow the city regulations and started operating this public facility even though there was no preparatory time. From the beginning, we needed to experiment with the management of the Artist-in-residence and repeatedly update our methods. As a result, we were flexible enough to meet current trends and the needs of artists who were the main users of the facility. Moreover, the citizens greatly welcomed the reopening of the municipal building in the park that had been marked for demolition, for the following simple reasons: the formerly inaccessible building was transformed into a community centre and the toilets became available during their walks in the park. With this welcoming mood as a support, we invented a way to invite citizens into the facility building for longer times and with more frequently. Here, instead of organizing participatory programs for exchanges, an ideal public space has been created through a situation where the artists and the citizens shared the same facility. Nowadays, it is accepted as a new place for everybody from elderly people to children.

New *AIR* environment - From “Scholarship type” to “Collaborative type”
We didn't choose the typical forms of Artist-in-residence that have been used so far in Japan, such as “*Ichi-go ichi-e type*” and “Grant type”. Instead, based on the premise that artists pay their own expenses, we were able to provide a situation where artists can decide the duration of their stay and freely design and execute their activities by being freed from the administration of subsidies. Due to the fact that in recent years transportation and associated costs have become more accessible, we succeeded in getting more than 400 users from the second year on.

Connecting with local resources – *AIR*, Archive and Circulation
In the management of the Artist-in-residence that relies on artists to pay for themselves, it was well worth considering the question of what we do in terms of support/providing for them. The conclusion we came to was that instead of financing them, we provide a place for "productive activities and fulfilling experiences" by using "local resources". For that purpose, we built up two methods; firstly “for artists' research and productions, we provided the necessary environment by gathering local resources such as materials, knowledge, technology and human resources within Sapporo-city as well as Hokkaido-prefecture, and coordinated them to match with the needs/aims of artists”; and secondly “by using the adjacent 13 studios constantly, we created a space of interaction between artists, that created the effect of post academic education“. Additionally, in the last 3 years, we have worked on the archive - collecting information and accumulating knowledge of the artists’ activities in order to provide a resource for future researchers. Now we have built a mechanism so that this archive has become a new local resource. That is to aim a change from “*AIR* = one-sided support to artists” to “Archiving *AIR*= create a cycle so that *AIR* profits the local region.”

Changes in keywords representing management policies and directions
Recycle and reuse, Sustainability, Experimental.
Freedom of speech, Networking and Individual.
↓
Keyword: Sharing, Collective and Sustainability

These results mentioned so far are like rewards given to us through the research, the projects and the artists’ perspectives of the special *AIR* program that we offer every winter. Together with many artists as well as local ones in Sapporo/Hokkaido, our Artist-in-residence has been built up to what it is now, it is according to the striking discovery of François Lemieux / UCCN 2018 Program and I started to overlay the evolving processes of AIR like growing snow crystals that take 5 years to form.

Schematic views

P02-03

[Schematic views of *SAPPORO TENJINYAMA ART STUDIO*]

Sapporo Tenjinyama Art Studio is a public facility in Sapporo-city - Cultural artistic facility. Characteristics of private organization: by maintaining an awareness that we are also members of the public, we too can consider potential changes in relation to diverse values, economies and mechanisms in our modern society. How far can we go within "creativity"?

Basis of *Artist-in-residence*
As an infrastructure within the cultural and artistic field: we aim to develop a career-oriented program for people who perform creative activities. (=Artists, etc.) To support the formation of this we have developed three programs (Self-funding, Networking/Exchange, International open call/Invitation)

***AIR* is the network:** Throughout the entire process of resident-artists' activities, social exchange is fostered as a means to build up relationships and we create contact points with the local community as well as organizing excursions to visit various places in the city. We also create a database that is conscious of artists' network with individuals, embassies, organizations, schools, and local communities in Japan as well as overseas.

***AIR* Director and Coordinator:** Providing accurate supports from specialists. We have created an environment that can guarantee the quality of artists' activities and productions by conducting a highly thorough process for the selection of artists. We put a high priority on daily communication between the artists and the staff, through means such as meetings and dialogues. Time-consuming projects are possible to realize by being followed up by the AIR Director after the residency period and there exists a support for developmental projects.

Effect of Post-Academic education: by using the large amount of available studios, we organize opportunities to promote exchanges between resident artists who come from multi-disciplinary fields. (*Wednesday sharing*, dinner party, talk event, etc.)

Construction and utilization of local network:
"*Sapporo/Hokkaido*" = studio for artists/fieldwork target.
There is no special workshop/equipment in the building. Instead, the users have the opportunity to access public facilities, equipment, technologies, and human resources that already exist in the city.

Visualization of local resources: by using digital methods, we archive surveys on resident-artists, their activities and exchanges. Archive data is also used for public relations. (*Art and Research Center*) https://aarc.jp/

Public Space Project

[PUBLIC SPACE PROJECT_The followings:events]

P04-05

Since resident-artists and citizens who use the facility share a public space and so as to create a situation where each others existence and activities are visible, we invented a way to let them both stay longer inside the facility. This situation makes a natural communality between the citizen's daily life and artists' active existence.

Art camp: An art program for elementary and junior high school students in Sapporo in order to experience staying with artists.

Garden Project, *TENJINYAMA* Cultural Festival: a plan developed from social communication with neighboring residents. The event was formed when *SAPPORO TENJINYAMA ART STUDIO* participated in the autonomous activities of citizens.

Art & Breakfast day © Mitsumura Mitamura: once a month event where the artists, staff and public come together to share breakfast. This functions as an entrance to experience *TENJINYAMA ART STUDIO* for public.

AIR 1: Exchange

P18-19

Exchange program for Cultural Network Developing

Autumn AIR
A special artist in residence program was held in the autumn of 2018 based on a collaboration between *SAPPORO TENJINYAMA ART STUDIO* and organizations/groups working in an international context.

Part of the activity of being an artist-in-residence means that diverse relationships such as connections and networks are created before, during or after the residency. *SAPPORO TENJINYAMA ART STUDIO* has been in operation for five years and has a diverse network of organizers and artists with whom they have some simple relationships and some that are more involved.
In the autumn of 2018, we invited a total of 3 overseas and Japanese artists (Jun, Rahic and Kuroda) through the networks that AIR has built up in order to forge new relationships. One of the artists, Rahic was invited through an exchange program between *SAPPORO TENJINYAMA ART STUDIO (Hokkaido)* and Taitung county in Taiwan.

[Autumun/ invitation program]
Jun Chong, Film director, Singapore
Rahic Talif, Artists,Taiwan
*Exchange program
Kuroda Daisuke, Artist, Japan

Archive of Sapporo Tenjinyama Art Studio

[Exchange program: Artist travelling to Taitung county in Taiwan]
Testuya Umeda, Artist, Japan

AIR 2: UCCN

[UCCN Artists in Residence Program 2018]

P20-21

Summary
The City of Sapporo, which is the capital of Japan's northernmost island and the sole UNESCO City of Media Arts in Japan, holds an international call for artists from one of the thirteen other UNESCO Cities of Media Arts, in collaboration with the management team of the Sapporo Tenjiyama Art Studio.
The Sapporo Tenjiyama Art Studio, which opened in 2014 as an Artist-in-Residence facility, allows artists and practitioners from all over the world to stay in Sapporo at an affordable rate to pursue creative activities.
In this UCCN AIR program, we will invite one selected artist (or group of artists) from one of the thirteen other UNESCO Cities of Media Arts to experience and research the characteristics of our city, where almost 2 million inhabitants are living in harmony with nature, over a 60-day period.
We support emerging artists in the media arts field, in the hope of strengthening our ties with other UCCN Creative Cities, and to provide a new stimulus for cultural activities in Sapporo.

François Lemiex
Francois Lemieux's art activity melds social practice, publishing and research in the form of exhibitions, documents and situations that aim to prompt collective thinking about the notions of value and commonality. He is a founding member of the Journ?e sans culture, ACTION INDIRECTE and Entrepreneurs du Commun collectives. He has also initiated group and independent projects such as We left the warm stable and entered the latex void (2008?2010), and co-edits the publication Le Merle, Cahiers sur les mots et les gestes. Born in 1979, Quebec City Lives and works in Montreal (CAN)

< Project Summary>
During my stay in Sapporo, my research has dealt with cristalisation —a physical and chemical process intimately related to the environment in which it takes place —

ambiant temperature, pressure, humidity level and so on. Also, I have looked into cristalization as a metaphor used to describe the complex ways in which a process renders a form visible. In turn, ideas, friendships, a collective project, a learning process as well as cities or networks can be said to cristlize. The primary materials presented at Tenjinyama Art Studio this week, sketch out the contour of what I have been exploring towards the making of new works.»

Constance & Alexander Hinfray

Constance is a visual artist and performer and Alexander is an information scientist, passionate about numeric culture and botanic knowledges. Our grandfather was an agronomist, who worked around 1960, near Mexico, in

Barbasco plantations (a root which provide a natural progesterone, it was cultivated and used for making the first contraceptive pill). A natural interest in poetry and botanic belong in the family and is transmitted to us through our mother Oda and our grandmother Karin.

This project is a way to translate in an actual language adapted to modern lives, an old familial culture regarding plants and its close relation to german romanticist philosophy. Constance graduated from Quimper Art school in France in 2014 and from Sandberg Institute, Amsterdam, Holland, in 2017. Her main subjects of research are the folklore of internet and the intelligence of the forest ecosystem.

Alexander studied management and lives and works in Austria (Linz).

< Project Summary>

Performances, 23th February, 1st and 2nd March. “Under the s(k)now blossom the abandoned”

23th February / Sapporo Tenjinyama Art Studio, Studio C > The twin plants.

1st March > Salon Tareme performance. (Entrance Fee 1,000 yen + 1 drink order requested)

2nd March / Sapporo Tenjinyama Art Studio, Studio C > Conversation with Alexander

Archive of artists: Photo, Video and Text

AIR 3: s(k)now

P28-29

s(k)now [snow + know]

Winter AIR

This AIR program is an international open call for participants, which we have been doing every winter since 2014.

With the keywords "Snow, winter and northern region", for 60 days invited artists stayed in *SAPPORO TENJINYAMA ART STUDIO* and pursued their activities of research for new works by walking, visiting, meeting and talking with people in Sapporo-city and Hokkaido prefecture. The result of these activities were shared in various media such as performances and exhibitions, with the people of Sapporo.

International open recruitment program ; about s(k)now [snow + know]

Sapporo is one of the more unique cities in the world of its size, as its 2 million residents live in cold, snowy conditions for a good portion of the year. In Sapporo City Hall one finds a snow safety station, which symbolizes the central importance of snowy life here. *The Sapporo Winter Olympics* of 1972 drove urbanization that had developments including remarkable snow removal operations, road heating, underground passages and transportation infrastructure. Winter entertainment includes sports and snow festivals, happening alongside the normal daily routines of society. Over time winter features grew in importance with diverse forms of knowledge being created through experience while creative activity energized the city These winter features appear to coexist with nature.

The International open call: *s(k)now [snow + know]* fosters the ideas and suggestions of artists who respond to the multifaceted environment of Sapporo-city and *Hokkaido* Prefecture, and the program keywords "snow, winter, northern region". Through this venture we would like to make an attempt to go beyond the boundaries of our surroundings and also question what we believe these boundaties are.

[Winter/ Invitation Program]

Elise Eeraerts, Artist, Belgium
Madhu Das, Artist, India
Takao Minami, Artist, Japan

さっぽろ天神山アートスタジオ

2018年度 事業・活動記録集

編集＆概要執筆：
小田井 真美（MO）、さっぽろ天神山アートスタジオ / 一般社団法人 AIS プランニング
翻訳：植村 絵美、小林 大賀、坂口 千秋、萩原 留美子、松田 朕佳、関根 ちあみ
協力：杉本 直貴
デザイン：真砂 雅喜、山田 大揮
発行：札幌市

運営チーム
■管理運営マネージメント / 統括：漆　崇博（一般社団法人 AIS プランニング）
■コーディネーター：坂口 千秋、松田 朕佳、さっぽろ天神山アートスタジオ（小林 亮　太郎、鈴木 萌、関根 ちあみ、深澤 優子、山田 大揮）
■コレスポンデンス：植村 絵美、塩島 遥子
■ドキュメント：越後 綾音、小林 大賀、小牧 寿里、加藤 康子、須之内 元洋、寺岡 桃、村川 龍司、さっぽろ天神山アートスタジオ
■プログラム・ディレクター / 事業設計・企画：小田井 真美

■ Special Thanks to（敬称略）：
＜個人＞
Art & Breakfast Day 常連のみなさま、網走 太陽下宿、石村 明子、磯崎 道佳、MC MANGO、川島 章、翁譽真、髙 瑞、國分 蘭、小林 大賀、塩島 瑶子、島袋 道浩、Shu Lun Wu、銭湯 花の湯、添田 雄二（北海道博物館）、台湾料理ごとう、田岸 伸一郎、田口 尚（公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター）、田中 光夫（札幌凧の会）、寺嶋 弘道（本郷新記念札幌彫刻美術館）、天神山文化祭 協力者のみなさん（葛西 明子 / 日本折り紙協会、佐仲泰輔、安達 ひで子、はなの會 / いけ花、桂三段（落語家）、シルベストレ・バルガス、菊池富也、北海学園大学ジャズ研究会、Whiz +、Claire & Sean、岡田 明彦、のんびり喫茶「天神山」、アートプレート展、まちづくり会「いきいき南平岸」、南平岸商店街振興組合、南平岸まちづくりセンター、札幌新陽高等学校）、Thomas Groenestyn & Timothy Sta-Ana、トムスマ･オルタナティブ、永島 顕子、中山 芳子 / シリエトク編集室、中村 省五、長坂 有希、庭プロジェクト・メンバー、藤井 浩（公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター）、穂積 利明（北海道立近代美術館）、本間 貴士、マユンキキ、三浦 里美、三原 聡一郎、ミリアム＆マリア・プロジェクト協力者のみなさん（榎本 晃 (北海道弓道連盟) + 榎本 亜絵子、Michiko Ishiko、Tomomi Hisano、Rui Uematsu、Junko Uematsu、Takae Okayama、Misato Suzuki, Mieyarm, Mika Nakano、Takashi Tamura、Keiji Oda、Galina Manikova）、MOWU、山下 俊介（北海道大学総合博物館）、山本 高之、Roberto Aparicio、2018 年度に滞在し、活動をおこなったアーティストのみなさま、様々な場面で運営のご協力、事業への参加をしてくださったみなさま

＜組織・団体＞
山の手高校（学校法人 西岡学園）、吉田学園やしの木保育園、天神山児童会館、劇団イレブンナイン、北のアルプ美術館、対馬アートファンタジア、札幌国際短編映画祭（No Maps ｜ Film）、SIAF ラボ（札幌国際芸術祭実行委員会）、民族共生象徴空間運営本部 / 公益財団法人アイヌ民族文化財団、北海道大学アイヌ・先住民研究センター、よりどこオノベカ、北海道大学総合博物館、北海道大学大学文書館、札幌市立大学、モエレ沼公園（公益財団法人札幌市公園緑化協会）、北海道立近代美術館（松山 聖央 学芸員）、札幌オリンピックミュージアム（白取 史之 学芸員）、札幌市中央図書館、札幌市図書・情報館、ベルギー大使館、オランダ大使館、京都芸術センター / レザルティス ミーティング 2019 京都主催、札幌新陽高等学校、札幌市立大倉山小学校、札幌市立澄川小学校、北海道立北方民族博物館、2018 Taiwan East Coast Land Art Festival、Taitung Dawn Artist Village、札幌文化芸術交流センター SCARTS（公益財団法人札幌市芸術文化財団）

2018 年度 AIR 事業の一部は、文化庁 / 平成 30 年度 文化庁 アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業の支援により実現しました。

漫画：小林 亮太郎

マドゥのチャイパーティーレシピ Madhu’s special CHAI recipe!

材料

生姜　５センチを薄い輪切りにしたもの
シナモンスティック ５センチ
カルダモン ６粒
紅茶ティーバッグ（ダージリンがあればなおよし）６つ
水 ６カップ
牛乳 ２カップ
砂糖（ゴールデンブラウンシュガー 圧縮された固まりのもの）１／２カップ

作り方

生姜の輪切り、シナモンスティック、カルダモンを中型の鍋に入れる。木べらか大きめのスプーンで軽くつぶす。６カップの水を入れ、強火で沸かす。少し冷ましてから、鍋の一部分にふたをして、中火で１０分コトコト煮る。火からおろす。ティーバッグを５分つける。取り除く。牛乳と砂糖を入れ、溶けるまで強火で煮る。チャイをティーポットに入れて、熱いうちにどうぞ。

（＊スタッフが実際に習ったときには、水を沸かしながら、たっぷり生姜を入れ、シナモンスティックは手で1センチほどにちぎり、カルダモンはまな板の上で包丁でつぶしてから入れていました。紅茶も茶葉があるときにはそれを使い、ティーバッグではありませんでした。きっと、初めての方用のレシピを書いてくれたのだと思います。
水と牛乳の配分は、７：4だ！と言われてメモしましたが、配分も違うようです。
　また、あるときには事務所にやってきて、砂糖問題が起こったほど、白い砂糖にこだわっていたはずでしたが、ここではまさかのブラウンシュガー、、、。でも、マドゥのお茶はスパイスもインドからのものを使い、薫り高く美味しかったので、是非お試しください。）

INGREDIENTS

2-inch piece of fresh ginger, cut into thin rounds
2 cinnamon sticks
6 cardamom pods
6 cups of cold water
6 bags of black tea (preferably Darjeeling)
2 cups of whole milk
1/2 cup (packed) golden brown sugar (to taste)

PREPARATION

Combine the first 3 ingredients in a medium saucepan. Using mallet or back of a large spoon, lightly crush or bruise spices. Add 6 cups of water: bring to the boil over a high heat. Reduce heat to medium-low, partially cover the pan, and simmer gently for 10 minutes. Remove from the heat. Add tea bags and steep 5 minutes. Discard tea bags. Add milk and sugar. Bring tea just to simmer over high heat, whisking until sugar dissolves. Strain chai into the teapot and serve hot.

(When I leaned the method from Madhu, he put plenty of ginger into the boiling water, tore a cinnamon stick with his hands and crushed the cardamom with a knife on a cutting board. Also, Madhu used tea leaves, not tea bags. He probably told us the recipe for beginners.
He also said, “ The ratio of water to milk is 7:4!” So, I wrote it down. However, the ratio above seems different.
Also, when he came to the office, he was so particular about using white sugar; however, he said brown sugar in the recipe!
Anyway, Madhu’ s chai used spices from India and it smelled amazing and delicious, so please give it a try. _C.S)

Overview of Sapporo Tenjinyama Art Studio:

Sapporo Tenjinyama Art Studio is an Artist-in-Residence program and facility which opened in summer 2014 in Sapporo city. Located inside Tenjin-yama Park and situated near the top of Tenjin Hill (85m), Tenjinyama Art Studio is a quiet environment surrounded by nature, 13 studio apartments, exhibition space and studios which is open for anyone to rent. The building is also open to people who are visiting the park to take a break. The atrium lounge on the ground floor is a communal area where anyone can drop in freely and artists participating in the program can communicate with local people on a daily basis through various events, artist presentations and open-to-the-public projects. For more information, please visit the website.

tenjinyamastudio.jp

SAPPORO

さっぽろ市
01-D05-19-2421
31-1-163